

8CH HD-TVI/AHD ハイブリッドレコーダー

取扱説明書

ソフトウェア **ver1.6.0**

THR-0820



8CH HD-TVI/AHD ハイブリッドレコーダー THR-0820 取扱説明書

免責事項について

株式会社ティービーアイ は取扱説明書の完全性および正確性について万全を期しておりますが、その内容について公式に保証するものではありません。 この取扱説明書の使用およびその結果については、すべてユーザーが責任を負うことになります。 本仕様は製品の性能向上のために事前予告なしで変更されることがあります。

* 設計および仕様は予告なく変更する場合があります。

安全上のご注意

最初に必ずお読みください

本取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。本文をよくお読みになり、記載事項をお守りください。

警告/注意

 警告 重度のケガ、死亡する危険性がある内容です。	 注意 装置を損傷したり軽度のケガを負ったりする危険性がある内容です。
---	---

警告

- 電源コードや接続ケーブルを傷つけないようにしてください。
電源コードや接続ケーブルを傷つけると、火災、感電の原因になることがあります。
 - ・ 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、挟み込んだりしないでください。
 - ・ 電源コードや接続ケーブルを加工したり、傷つけたりしないでください。
 - ・ 重い物を載せたり、引っ張ったりしないでください。
 - ・ 熱器具に近づけたり、加熱したりしないでください。
 - ・ 電源コードや接続ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 屋内の安定した場所で使用してください。
本製品は屋内で使用してください。また、ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所や仕様書に記載されている使用条件以外の環境に設置しないでください。 火災、感電の原因になることがあります。
- 分解や改造をしないでください。
分解や改造をすると、火災、感電、けがの原因となることがあります。
内部点検や修理は、販売店にご依頼ください。
- 直射日光に当たる場所、熱器具の近くにはおかないでください。
内部の温度が上がり、火災や故障の原因になることがあります。
- 内部に水や異物を入れないでください。
水や異物が入ると火災、感電の原因になることがあります。
- ぬれた手で電源プラグをさわらないでください。
ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因になることがあります。

注意

- 移動の際は電源コードや接続コードを抜いてください。
接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。
- 接続の際には電源を切ってください。
電源を入れたまま電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。
- 排気口、通風口をふさがないでください。
排気口や通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
風通しをよくするために次の項目をお守りください。
 - ・ 壁から10 cm以上離して設置してください。
 - ・ 密閉された狭い場所に押し込めないでください。
 - ・ じゅうたんなどの毛足の長い敷物の上に設置しないでください。
 - ・ 布などで包まないでください。

使用上のご注意

1. 次のような使用は避けてください。故障の原因になります。
 - ・ 直射日光が長時間当たるところや暖房器具近く（使用動作温度を守ってお使いください）
 - ・ 極端に暑い場所や寒い場所（使用動作温度を守ってお使いください）
 - ・ 強い磁気を発するものの近く
 - ・ 強力な電波を発する送信所の近く
 - ・ 強い振動、衝撃のある場所
 - ・ 湿気、埃の多い場所
2. 本機を段積みしたり、発熱物の上において使用しないでください。
3. ハード ディスクドライブまたは外部ストレージを追加する場合は、事前にそれが本製品に準拠していることを確認してください。互換性のリストについては、お近くの販売店までお問い合わせください。
4. 使用電源はAC100Vです。設置の際は消費電力の大きな機器（コピー機や空調機など）と同じACコンセントからは電源を取らないでください。また本体は電源スイッチがないので、必要に応じて本体と電源を遮断できるように、遮断装置ユニットの設置や、電源コードに容易に手が届くようにしてください。
5. 使用環境温度0℃～40℃でご利用ください。この範囲を越えると故障や誤作動の原因となります。また、温度差の大きいところや湿度の高いところへ移動すると、結露を生じることがあります。結露したまま使用すると故障の原因となりますのでご注意ください。
6. 時計や停電時の動作内容の保存などで内蔵バックアップ電池を利用しており、本体が通電していないときにはこの内蔵電池を利用しています。全く通電を行わない場合は、目安 3年程で電池を交換する必要がありますので、必要に応じて交換することをお勧めします。
7. システム稼動中は、振動や衝撃を与えないでください
デジタルレコーダーはハードディスクドライブに録画データを保存しています。ハードディスクはわずかに数ミクロンの隙間をディスクが高速で回転しており、システム稼動中に振動や衝撃を与えるとハードディスクが損傷し、デジタルレコーダーが起動しなくなったり、録画データが読み出せなくなったりします。（ハードディスクの録画データは保証対象外になります）
8. 内蔵ハードディスク、放熱ファンは消耗品です
約30,000時間、（この時間は部品の性能を保証するものではありません）を目安に交換することをお勧めします。交換の際は販売店にご相談ください。
9. 強い磁界を発生する機器（テレビ、ラジオ、無線機、電動モーターなど）の近くでは、画像の乱れやノイズが発生するおそれがあります。また電灯線や動力線に近づけてケーブルを配線すると、ノイズが入る場合があります。このような場合は設置場所やケーブル配線をかえるなどノイズ対応をしてください。
10. お手入れは、安全の為、電源を遮断した状態で乾いた布や、薄めた中性洗剤などを染み込ませ、固く絞った布で軽くふいてください。（ベンジン・シンナーは塗装がはげたり、変形したりします）お手入れの際は、放熱ファンに物がはさまったり、指をつめたりしないように気をつけ、必要に応じて掃除機などもご利用ください。
11. 予想できない停電による製品の破損を防止するため、UPS (Uninterruptible Power Supply, 無停電電源供給装置) のご利用をお勧めします。
12. 本体の故障、もしくは不都合により録画されなかった場合の補償についてはご容赦ください。
13. 異常な音または臭いがする場合は直ちに電源を切って販売店に問い合わせください。
14. システムの性能を維持するためには販売店に依頼して定期的な点検をしてください。

目次

第1章 — 概要.....	1
製品の特徴.....	1
技術要約	2
第2章 — 設置.....	3
パッケージ内容	3
各部の名称と機能	3
ビデオソース接続.....	3
オーディオ接続.....	3
アラーム接続.....	4
ファクトリーリセット	4
モニター接続.....	4
ネットワークポート接続.....	5
RS232ポート接続.....	5
RS485接続.....	5
電源コード接続.....	5
第3章 — システム構成	7
前面パネルボタン	7
カメラボタン	7
LED.....	7
矢印ボタン.....	8
再生/一時停止ボタン.....	8
メニューボタン.....	8
PTZボタン	8
検索ボタン.....	8
分割表示ボタン.....	8
緊急録画ボタン.....	8
USB接続用端子.....	9
アラーム ボタン	9
リモコンボタン	10
IDボタン	10
カメラボタン.....	10
画面自動切換ボタン.....	10
一時停止ボタン.....	10
矢印ボタン.....	11
メニューボタン.....	11
再生ボタン.....	11
緊急録画ボタン.....	11
分割表示ボタン.....	11
拡大ボタン.....	11
カメラ操作ボタン	11
エンターボタン.....	12
アラームボタン.....	12
PTZ制御ボタン.....	12
バックアップボタン.....	12
カレンダーボタン	12

ログイン	13
メニューの使用法	14
仮想キーボードを利用した文字列入力	14
テーブルで全ての列の値を同時に設定する	14
マウスの使用	15
システム設定	15
一般	15
日時/時間	23
ユーザー	24
HDD	26
システムイベント	27
録画設定	29
一般	29
スケジュール	30
プリイベント	32
イベント設定	33
モーション	33
トリップゾーン	34
アラーム入力	36
映像信号なし	37
映像遮断	38
テキストイン	39
カメラ設定	41
一般	41
PTZ	42
クリッププライバシー	43
プライバシーマスキング	44
装置設定	45
オーディオ	45
アラーム出力	45
遠隔制御	46
その他	47
ネットワーク設定	47
一般	47
LAN	48
FEN	50
RTSP	51
ウェブガード	52
VNC	52
NetFS	53
通知設定	55
コールバック	55
メール	55
FTP	57
スケジュール	59
ディスプレイ設定	60
OSD	60
メインモニター	61
第4章 — 運営	63
電源を入れる	63
ライブ監視	63

ライブ監視メニュー.....	64
画面グループ編集機能.....	66
拡大機能.....	66
PTZ制御.....	66
イベントモニタリング機能.....	68
隠しカメラ機能.....	68
状態監視.....	68
映像録画.....	70
緊急録画機能.....	70
オーディオ録音.....	70
保存映像の再生.....	70
映像検索.....	72
検索メニュー.....	72
イベントログ検索.....	74
録画テーブル検索.....	76
モーション検索.....	77
テキストイン検索.....	78
サムネイル検索	80
ブックマーク.....	80
バックアップ.....	81
印刷.....	82
付録.....	83
USBハードディスクのインストール.....	83
テキストイン情報のクエリー例.....	83
クエリー例1.....	83
クエリー例2.....	84
ウェブガード.....	85
ウェブ監視モード.....	86
ウェブ検索モード.....	87
時間重複.....	89
設定画面の構成図.....	90
システムログタイプ.....	91
エラーコードタイプ.....	92
故障の際の確認事項.....	93
製品の仕様.....	94
外形寸法図.....	95

図目次

図 1: サンプル構成図	2
図 2: DVR背面パネル	3
図 3: DVR前面パネル	7
図 4: IRリモコン	10
図 5: ログイン画面	13
図 6: パスワード探し画面	13
図 7: ログアウト画面	13
図 8: 設定メニュー画面	14
図 9: システム－一般設定画面	15
図 10: システム－日時/時間設定画面	23
図 11: システム－ユーザー設定画面	24
図 12: システム－HDD設定画面	26
図 13: システム－システムイベント設定画面	27
図 14: 録画－一般設定画面	29
図 15: 録画スケジュール設定画面	30
図 16: スケジュール－設定(高級モード)設定画面	31
図 17: 録画－プリイベント設定画面	32
図 18: イベント－モーション設定画面	33
図 19: イベント－トリップゾーン設定画面	34
図 20: イベント－アラーム入力設定画面	36
図 21: イベント－映像信号なし設定画面	37
図 22: イベント－映像遮断設定画面	38
図 23: イベント－テキストイン設定画面	39
図 24: カメラ－一般設定画面	41
図 25: カメラ－PTZ設定画面	42
図 26: カメラ－クリッププライバシー設定画面	43
図 27: カメラ－プライバシーマスキング設定画面	44
図 28: 装置－オーディオ設定画面	45
図 29: 装置－アラーム出力 設定画面	45
図 30: 装置－遠隔制御設定画面	46
図 31: 装置－その他の装置設定画面	47
図 32: ネットワーク－一般設定画面	47
図 33: ネットワーク－LAN設定画面	48
図 34: ネットワーク－FEN設定画面	50
図 35: ネットワーク－RTSP設定画面	51
図 36: ネットワーク－ウェブガード設定画面	52
図 37: ネットワーク－VNC設定画面	52
図 38: ネットワーク－NetFS設定画面	54
図 39: 通知－コールバック設定画面	55
図 40: 通知－メール設定画面	55
図 41: 通知－FTP設定画面	57
図 42: 通知－スケジュール設定画面	59
図 43: ディスプレー－OSD設定画面	60
図 44: ディスプレー－メインモニター設定画面	61
図 45: ライブ監視メニュー	63
図 46: PTZカメラ選択メニュー	66
図 47: PTZ設定画面	67

図 48: イベント状態 – イベント状態画面	68
図 49: イベント状態 – HDD画面	69
図 50: 再生カメラ選択メニュー	71
図 51: 検索メニュー	72
図 52: イベントログ検索画面	74
図 53: 録画テーブル検索画面	76
図 54: モーション検索画面	77
図 55: テキストイン検索画面	78
図 56: サムネイル検索画面	80
図 57: ブックマーク設定画面	80
図 58: バックアップ設定画面	81
図 59: 印刷画面	82

第1章 — 概要

製品の特徴

本デジタルビデオレコーダー(DVR)は、8チャンネルのカメラ入力を録画できます。また、監視・再生の両モードの画質に優れ、以下のような特徴を備えています。

- チャンネル別にビデオのライブ監視
- カラーと白黒(CCIRとEIA-170)ビデオソースに対応
- HD-TVIとAHD入力自動感知
- NTSCとPAL自動感知
- H.264コーデック
- HDMI、VGA同時出力サポート
- カメラメニュー調整画面制御のためのUTCサポート(同軸ケーブルでカメラメニュー調整画面制御)
- 速く手軽な検索モードを提供(日付/時刻、録画テーブル、イベント)
- 240ipsリアルタイム録画(Full HD解像度基準)
- ディスク上書きモードによる連続録画可能
- USB 2.0、2ポート装備(マウス、プリンター、S/Wのアップグレードとバックアップ用)
- 録画中止無く、再生及び遠隔伝送可能
- 判り易いグラフィックユーザーインターフェース(GUI)
- 多様な録画モード(スケジュール、イベント、プリイベント、緊急録画)
- 両方向オーディオ通信
- 4チャンネルオーディオ録音、1チャンネルオーディオ再生、
- POS/ATM接続をサポート
- 8アラーム入力、1アラーム出力、内部ブザー
- 遠隔機能を提供 – 遠隔監視、遠隔検索、遠隔管理、両方向オーディオ)
- IRリモコン機能
- 自己診断機能を装備し、HDDの状態などシステムの状態をシステムイベントに通知。HDDの状態は、業界標準S.M.A.R.T.プロトコルを使用。

技術要約

本DVRは、アナログNTSC、AHDやHD-TVI映像をデジタル映像に変換して、これをハードディスクに保存します。ハードディスクを利用することで、保存された映像を迅速に検索及び再生することができます。また、DVRが映像を録画している間でも保存された映像を見ることができます。

デジタルで保存された映像は、画面停止、高速の再生・逆再生、低速の再生・逆再生ができます。また、検索時に時刻別及びイベント別の映像を分類して、望みの映像を直ちに再生できます。

本DVRは、イベント録画とタイムラプス録画が可能です。録画スケジュールは時刻別、曜日別そしてユーザーの定めた休日別に設定できます。

本DVRは、ハードディスクに空き空間が無くなった場合、アラーム出力やブザーによってユーザーに通知するか、又は古い映像から順に消去しながら録画を継続するように設定できます。

本DVRは、独自の暗号化技術で映像を符号化する事で、保存した映像を改竄することは不可能です。

イーサネットによって、遠隔地から本DVRをコントロールしたり映像を監視できます。標準PostScript™パソコンプリンターを連結して保存されたビデオを出力することができます。USBポートを利用して保存資料を外付HDDやフラッシュメモリに保存可能です。

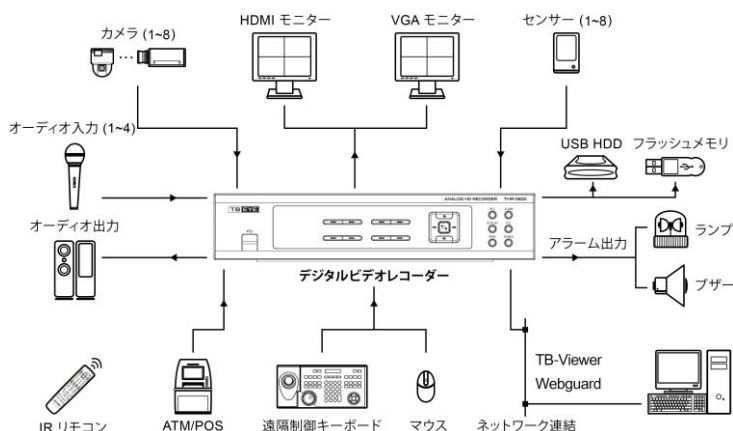


図 1: サンプル構成図

第2章 — 設置

パッケージ内容

本製品は下記のような内容品から構成されています。

- デジタルビデオレコーダー
- 電源アダプタ、電源コード
- 増設HDD固定用ネジ x 4
- 電源ケーブル止め
- 取扱説明書(本文書)
- 簡易マニュアル、操作クイックガイド
- TB ViewerソフトウェアCDと取扱説明書
- リモコン
- マウス

各部の名称と機能

全体のシステムを構成する他の装置については、各装置の設置マニュアルを参照してください。

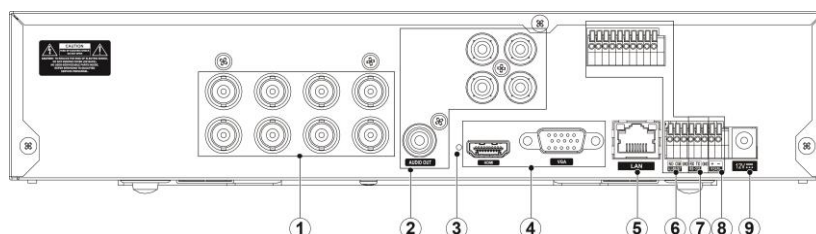


図 2: DVR背面パネル

- | | | |
|------------|--------------|------------------|
| ① ビデオ入力 | ② オーディオ入力/出力 | ③ ファクトリーリセットスイッチ |
| ④ ビデオ出力 | ⑤ ネットワークポート | ⑥ アラーム入力/出力 |
| ⑦ RS232ポート | ⑧ RS485ポート | ⑨ 電源コードコネクタ |

ビデオソース接続



ビデオソースからBNC Video Inコネクタまで、同軸ケーブルで接続します。

オーディオ接続

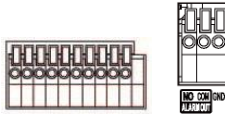


DVRは録音することができます。オーディオソースをオーディオ入力コネクタに接続して、オーディオ出力をアンプに接続します。

参考: 設置地域内の法規で録音が許可されているか判断するのは、ユーザーの責任です。

参考: DVRにはオーディオ出力アンプがないため、ユーザーはアンプとスピーカーを準備してください。オーディオ入力には複数のソースを接続できますが、内蔵アンプのないマイクの場合、直接接続すると正常に動作しません。その場合は別途のプリアンプを経た後から接続してください。

アラーム接続



参考: アラームコネクタを接続するには、ボタンを押したまま信号ケーブルをボタンの穴に挿入します。しっかりと接続されたかどうかボタンを離して信号ケーブルを引っ張り、抜けないかどうかを確認します。信号ケーブルを抜く場合は信号ケーブルの上のボタンを押したまま信号ケーブルを引っ張ります。

AI 1~8 (アラーム入力): 外部装置を利用して、イベントが発生した場合にDVRが反応するように信号を送ることができます。機械的または電氣的スイッチをAI(アラーム入力)とGND(アース)コネクタに接続できます。電氣的スイッチのアラーム入力検出されるためにはNC(ノーマリークローズド)の場合2.4V以上で、NO(ノーマリーオープン)の場合、0.3V以下の電圧が少なくとも0.5秒以上続かなければなりません。アラーム入力の電圧範囲は0V~5Vです。アラーム入力の設定に関する内容はこの取扱説明書の環境設定を参照してください。

GND (アース): アラームの入力や出力のアース側をGNDコネクタに接続します。

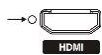
参考: GNDが表示されている全てのコネクタは共通です。

NO (Normally Open): このDVRは、ブザーやライトのような外部装置をオンオフできます。機械的、または電氣的スイッチをNOとCOMコネクタに繋がられます。電氣的な仕様は125VACで2A、30VDCで1Aシンク電流です。アラーム出力の設定に関する内容は、この取扱説明書の“第3章-システム構成-装置設定、アラーム出力”部分を参照してください。

コネクタの配置:

AI (1~8)	アラーム入力 1~8
GND	アース
COM	リレーCommon
NO	リレーアラーム出力 (Normally Open) (アラームが発生した場合、Common端子と接続)

ファクトリーリセット



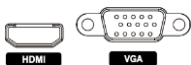
装置背面のHDMIコネクタの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、DVRを工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。

注意: 工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

本体の設定を初期化するために、まっすぐなピンが必要です。

1. DVRの電源を切ります。
2. DVRの電源をもう一度入れます。
3. DVRが初期化されながら、前面パネルのLEDが点滅しているときにピンでHDMIコネクタの左側にあるファクトリーリセットスイッチの穴を押します。
4. DVRの内部ブザーが二回鳴るまでスイッチを押し続けます。
5. 押していたピンをスイッチから外せば、DVRの全設定は工場出荷時の初期設定状態になります。

モニター接続



HDMI(High-Definition Multimedia Interface、高画質マルチメディアインタフェース)及びVGAモニターを該当のポートに接続することができます。

参考: システム設定でそのモニターに設定した解像度で映像を表示するためには、DVRの起動前にモニターが接続されていなければなりません。

ネットワークポート接続



このDVRは、10Mbps/100Mbpsイーサネットコネクタを利用してネットワークに接続できます。DVRのネットワークコネクタにRJ-45ジャック付のCat5e ケーブルを接続します。DVRはコンピュータとネットワーク上で接続され、遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアアップグレードができます。イーサネット接続の設定についての内容は、この取扱説明書の“第3章－システム構成、ネットワーク設定”部分を参照してください。

RS232ポート接続



RS232ポートは遠隔制御キーボード、PTZカメラおよびテキストインのデバイスなどの遠隔制御デバイスを接続するために提供されます。RS232を接続するためには、この取扱説明書の“第3章－システム構成－カメラ設定、遠隔制御設定、テキストイン設定”部分と遠隔制御 デバイス 製造メーカーの取扱説明書を参照してください。

コネクタの配置:

マスター機器		スレーブ機器	
RX	→ To →	TXD	
TX	→ To →	RXD	
GND	→ To →	GND	

参考: スレーブデバイスの9ピンのコネクタの配置は以下のようです。



雄



雌

Pin 2	RXD (Receive Data)
Pin 3	TXD (Transmit Data)
Pin 5	GND (Ground)

RS485接続



このDVRは、RS485 half-duplexシリアル通信信号を利用して、外部装置または制御用キーボードのような制御システムによって遠隔制御できます。また、RS485コネクタはPTZ(Pan, Tilt, Zoom)カメラを制御するのに使用できます。外部機器のRX+/TX+、RX-/TX-をDVRの+、-に接続します。RS485を接続するためには、この取扱説明書の“第3章－システム構成－カメラ設定、遠隔制御設定、テキストイン設定”部分とPTZカメラ製造メーカーの取扱説明書を参照してください。

コネクタの配置:

マスター機器		スレーブ機器	
+	→ To →	TX+/RX+	
-	→ To →	TX-/RX-	

電源コード接続



アダプタのコネクタをDVRに接続してからアダプタのAC電源コードを壁のコンセントに接続します。この装置には電源スイッチがないので、接続するとすぐに電源が入ります。

注意: 電源コードは配線を足に引っ掛からないようにし、コードが家具のせいで傷ついたりしないようにご注意ください。電源コードをじゅうたんやカーペットの下に設置しないでください。電源コードにはアースがありますが、コンセントにアース端子がないからといってプラグを改造したり、一つのコンセントにあまりたくさんの装置をつないで過負荷が生じることのないようにしてください。

DVRはこれで作動準備が完了しました。この取扱説明書の“第3章－システム構成”と“第4章－運営”部分を参照してください。

第3章 — システム構成

前面パネルボタン

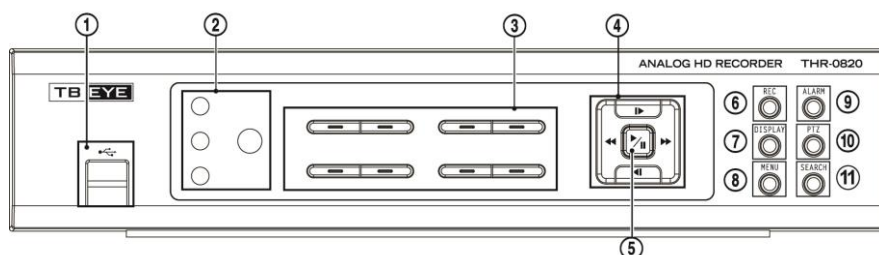


図 3: DVR前面パネル

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| ① USB接続用端子 | ② LED | ③ カメラボタン |
| ④ 矢印ボタン | ⑤ 再生/一時停止ボタン | ⑥ 緊急録画ボタン |
| ⑦ 分割表示ボタン | ⑧ メニューボタン | ⑨ アラームボタン |
| ⑩ PTZボタン | ⑪ 検索ボタン | |

前面パネルの大部分のボタンには一つ以上の機能があり、以下の説明を参照して各ボタンによってDVRを設定してDVRを作動させることができます。

参考: リモコンセンサーがLEDの右側にあります。この部分が他の物で隠れないようにしてください。そうでなければリモコンが正常に動きません。

参考: Wi-Fi(無線LAN)及びBluetoothのような無線通信機能があるデバイスをDVRの近くに置いて使用する場合、リモコンが正常に動作しない場合があります。

参考: 一般家庭用PCのように、USBマウスを利用して各設定画面とメニューに移動することができます。

カメラボタン

ライブ監視モードや再生モードでカメラボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面で見ることができます。

LED

電源LED: 本体が動作中に点灯します。

アラームLED: アラームイベントが発生すると、アラームLEDが点灯します。

HDD LED: ハードディスクに映像を保存したり、保存された映像を検索したりするときに点滅します。

矢印ボタン

矢印ボタンは、各メニュー設定と画面上で移動するために使用します。設定メニューで上/下矢印ボタンを使って数字を増減できます。また、PTZモードで矢印ボタンを利用して上下左右の移動を調節できます。監視・再生中に左/右ボタンを押すと画面のページが変わります。PIPモードでは上/下矢印ボタンを押すとサブ画面の位置が移動します。PIPモードから上/下矢印ボタンを選択するとサブ画面の位置が反時計/時計方向に移動し、左/右ボタンを選択するとサブ画面のサイズが変わります。

再生モードで 矢印ボタンはビデオを高速で逆再生します。ボタンを押すたびに、、 (X16, X32, X64, X128, X256) に速度が切り替わります。画面にも、、 がそれぞれ表示されます。 矢印ボタンはビデオを高速で再生します。ボタンをもう一度押すと、、、 (X16, X32, X64, X128, X256) に速度が切り替わります。画面にも、、 がそれぞれ表示されます。一時停止状態から 矢印ボタンを押すと現在の画面の次の画面を、 矢印ボタンを押すと現在の画面の前の画面を見ることができます。

再生/一時停止ボタン

ライブ監視モードで ボタンは監視画面を一時停止させて、画面上には のようなアイコンが表示されます。再生モードではこのボタンを押すたびにビデオを一般速度で再生するか一時停止させます。

メニューの設定時 ボタンは項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。

メニューボタン

メニューボタンをライブ監視モードで押すとライブ監視メニューが、検索モードで押すと検索メニューが画面に表示されます。ボタンをもう一度押すとメニューは消えます。

メニューボタンを3秒以上押すと、画面グループ編集モードが始まります。画面グループ編集についての内容は、この取扱説明書の「第4章-運営-ライブ監視、画面グループ編集機能」部分を参照してください。

PTZボタン

PTZボタンを押すとPTZモードになり、設定されたPTZカメラが制御できます。PTZモードが開始すると、方向ボタンで上下左右に動かすことができます。

検索ボタン

検索ボタンを押すと検索画面が表示されます。また、ライブ監視モードで検索ボタンを3秒以上押すとバックアップ画面に変更されます。

分割表示ボタン

分割画面ボタンを押すとPIP, 2x2, 1+5, 1+7, 3x3 画面に変わります。

緊急録画ボタン

緊急録画ボタンを押すと が表示されて、現在のスケジュールに関係なく映像を録画します。ボタンをもう一度押すと緊急録画モードが解除されます。

USB接続用端子

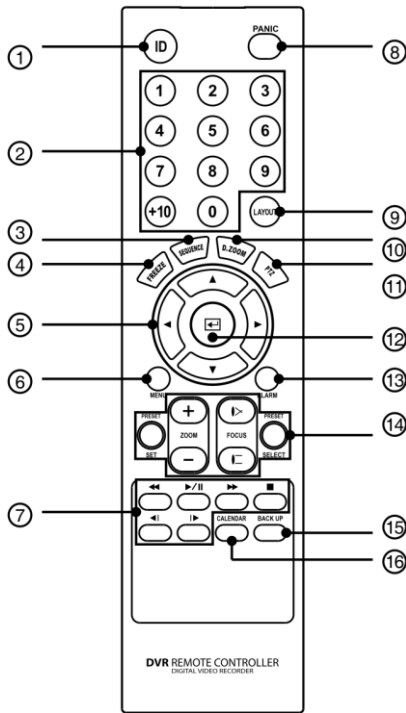
USBポートにUSB用の外付HDDやフラッシュメモリを繋いでバックアップに使用することができます。外付ハードディスクはできるだけDVRの近くに置き、一般的に1.8メートルより短いケーブルで接続してください。HDDと一緒に提供されたUSBケーブルを使用してDVRに接続してください。USB用の外付HDDやフラッシュメモリでのビデオバックアップについての内容は、この取扱説明書の“第4章-運営-バックアップ”部分を参照してください。

USBポートにUSBマウスを接続することが可能であり、USB<->シリアルコンバーターを繋げてテキストイン装置を幾つか繋げるのに使うこともできます。

アラーム ボタン

アラーム ボタンはアラームが作動している間、内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。アラームが作動しないライブ監視モードでボタンを押すと画面にイベントログを出力します。

リモコンボタン



- ① IDボタン
- ② カメラボタン
- ③ 画面自動切換ボタン
- ④ 一時停止ボタン
- ⑤ 矢印ボタン
- ⑥ メニューボタン
- ⑦ 再生ボタン
- ⑧ 緊急録画ボタン
- ⑨ 分割表示ボタン
- ⑩ 拡大ボタン
- ⑪ カメラ操作ボタン
- ⑫ エンターボタン
- ⑬ アラームボタン
- ⑭ PTZ制御ボタン
- ⑮ バックアップボタン
- ⑯ カレンダーボタン

図 4: IRリモコン

IDボタン

IDボタンを押すとリモコンのIDを設定することができます。DVRのユニットIDが0の場合はリモコンのID設定しなくてもシステムを操作することができます。ユニットIDの意味と設定方法はこの取扱説明書の“第3章－システム構成－システム設定、一般”部分を参照してください。ユニットIDが1~16の場合には**ID**ボタンを押してから1~16(+10 & 6)のIDに該当する数字ボタンを押します。該当システムに対してリモコン入力によってシステムが制御できます。複数のシステムIDが0の場合、リモコンを操作すると複数が一度に遠隔制御されます。

カメラボタン

ライブ監視モードや再生モードでカメラボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面で見ることができます。また、パスワードが数字の場合パスワード入力画面で、1から9までの数字をカメラボタンを利用して入力できます。

画面自動切換ボタン

ライブ監視モードで**画面自動切換**ボタンを押すと、別のチャンネルを連続して表示するシーケンスモードに切り替わります。

一時停止ボタン

一時停止ボタンは監視画面を一時停止する時、使います。

矢印ボタン

矢印ボタンは、各メニュー設定と画面上で移動するために使用します。設定メニューで上/下矢印ボタンを使って数字を増減できます。また、PTZモードで矢印ボタンを利用して上下左右の移動を調節できます。監視・再生中に左/右ボタンを押すと画面のページが変わります。PIPモードでは上/下矢印ボタンを押すとサブ画面の位置が移動します。PIPモードから上/下矢印ボタンを選択するとサブ画面の位置が反時計/時計方向に移動し、左/右ボタンを選択するとサブ画面のサイズが変わります。

ライブ監視モードや再生モードで左/右の矢印ボタンを押すと現在の画面ですぐ以前または次の画面が見られます。

メニューボタン

 ボタンをライブ監視モードで押すとライブ監視メニューが、検索モードで押すと検索メニューが画面に表示されます。ボタンをもう一度押すとメニューは消えます。

再生ボタン

- **逆再生:**  ボタンを押すとビデオを高速で逆再生します。ボタンを押す度に 、、 (X16, X32, X64, X128, X256) で速度が変わります。
- **再生/一時停止:**  ボタンを押すと普通で再生します。再生中にボタンを再び押すとビデオは一時停止され、ビデオ再生中には画面に  が、一時停止モードでは画面に  が表示されます。
- **高速再生:**  ボタンを押すとビデオを速い速度で再生します。ボタンを再び押すと 、、 (X16, X32, X64, X128, X256) で速度が変更されます。
- **停止:** 再生モードで  ボタンを押すとライブ監視モードに変わります。
- **前の画面:** 再生モードの一時停止状態で  ボタンを押すと現在の画面のすぐ前の画面が見られます。
- **次の画面:** 再生モードの一時停止状態で  ボタンを押すと現在の画面ですぐ次の画面が見られます。

ライブ監視モードで、再生関連のボタンを押すと検索モードに入ります。

緊急録画ボタン

 ボタンを押すと  が表示されて、現在のスケジュールに関係なく映像を録画します。ボタンをもう一度押すと緊急録画モードが解除されます。

分割表示ボタン

 ボタンを押すとPIP, 2x2, 1+5, 1+7, 3x3 画面に変わります。

拡大ボタン

 ボタンは、画面である部分を拡大したいときに使用します。矢印ボタンで拡大画面窓を移動できます。

カメラ操作ボタン

 ボタンを押すとPTZモードが始まり、設定されたPTZカメラを制御します。

エンターボタン

 ボタンはメニューの設定時、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。

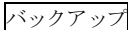
アラームボタン

 ボタンは、アラームが作動している間、内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

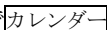
PTZ制御ボタン

PTZモードで ボタンは保存されたプリセットに移動したりプリセットを保存する時、 ボタンは画面を拡大したり縮小する時使われ、 ボタンは近距離または遠距離焦点ボタンで使われます。

バックアップボタン

 ボタンを押すとバックアップメニューに変わります。

カレンダーボタン

再生モードで ボタンを押すとカレンダー検索窓が表示されます。

参考: 便宜上、本取扱説明書のボタン使用に関する説明は、前面パネルボタンを基本として作成されています。

ログイン

メニューボタンを押すか、マウスの右クリックをして、ライブ監視メニューからログイン/ログアウトを選ぶと、次のようなログイン画面が表示されます。

図5: ログイン画面

環境設定、検索などのDVRのさまざまな機能を使用するためには、使用権限のあるユーザーでログインしてください。ユーザーを選択してパスワードを入力すると、そのユーザーとしてログインします。初期の管理者IDは“admin”です。パスワードを忘れた場合、右下の **?** ボタンを押すと関連情報が現れます。

パスワードを忘れた場合、ログイン画面で“パスワード探し”をクリックしてください。ユーザーを選択し、E-mailアドレスを入力した後、“認証番号取得”をクリックしてください。

E-mailで届いた認証番号を入力して“決定”をクリックします。

図6: パスワード探し画面

参考: 保安のために通常パスワードを設定してシステムを運営してください。パスワード無しでシステムを使うと警告メッセージが表示されます。

参考: 前面パネルを使用できない場合にはマウスの右ボタンを利用してパスワード項目の右側の **...** ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法－仮想キーボードを用いた文字入力”部分を参照してください。

参考: システムからログアウトするには、**メニュー**ボタンを押すか、マウスの右クリックをしてライブ監視メニューからログイン/ログアウトを選びます。

図7: ログアウト画面

メニューの使用方法

ライブ監視画面でマウスの右クリックをしてライブ監視メニューから (設定)を選ぶと、設定メニューに入ります。設定メニューに入るためにはメニュー設定権限のあるユーザーでログインしてください。

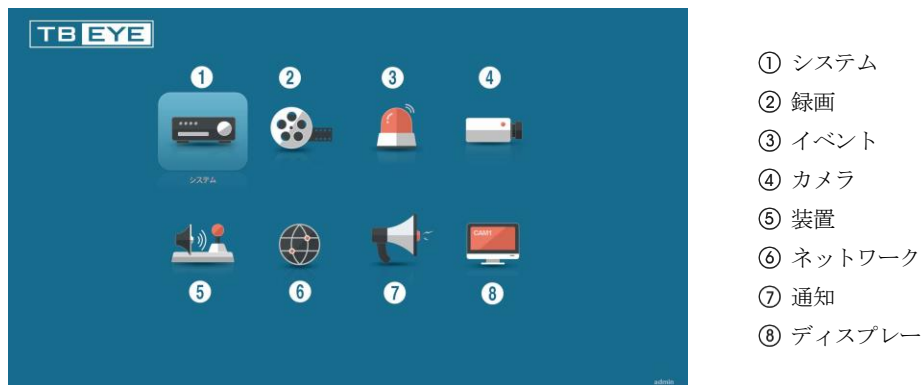
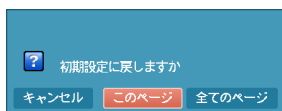


図8: 設定メニュー画面

メニューのうち一つの項目を選択しようとする場合は、矢印ボタンで該当項目に移動してから ボタン、またはマウスの左ボタンで該当項目をクリックしてください。

各項目の設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化) アイコンを選択すると設定値が初期値に戻ります。



“このページ”を選択すると、現在のページ設定値が、“全てのページ”を選択すると設定画面の全てのページ該当する設定値が初期値に戻ります。

仮想キーボードを利用した文字列入力

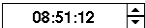


矢印ボタンを利用して任意の文字に移動して ボタンを押すか、矢印を合わせてマウスをクリックすると、文字が入力されます。 ボタンは大文字と小文字を設定し、 はカーソルの前の文字を、 はカーソルの後の文字を消します。 ボタンはキーボードの配列を変更します。タイトルは空スペースを含めて最高31字まで入力できます。 を選択してから^を入力すると、コントロール文字を入力できます。例えば、^JはNL(New Line)、^MはCR(Carriage Return)として認識されます。これはテキストイン検索設定時に使用されます。

テーブルで全ての列の値を同時に設定する

“第3章－システム構成－カメラ設定”の場合のように、メニューが表になった項目の場合、一部は表のタイトル値で変更できます。その場合、タイトル値を変更すると同じ列の全ての項目が同じように変更されます。PTZカメラのIDのように、その値が同じではない場合には、このような方法では変えられないようになっていきます。

マウスの使用

マウスを使うとより便利に環境設定することができます。望みの項目をクリックして選択するのも早いし、スクロールバーのあるメニューでマウスのホイールを上下に回してメニューを手軽に上下させることもできます。また、のように数字を増減させる場合にも、マウスのホイールを回すと楽に望みの数字に設定できます。

システム設定

一般

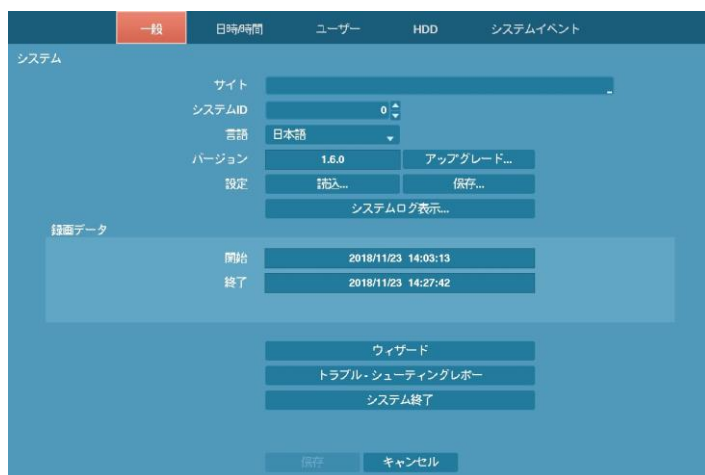


図 9: システム一般設定画面

“サイト”項目には入力されたシステムインストール場所についての説明が表示されます(初期値はありません)。説明部分を選択してボタンを押すかマウスをクリックすると、仮想キーボードが表示されます。それを利用して場所についての説明を変更できます。

“システムID”は別のDVRと接続された場合に、機器を区別するのに使用され、RS-485で数台のシステムを接続して遠隔キーボードによって遠隔制御したり、IRリモコンによって制御を行う場合に、二台以上のDVRに同じIDを使用することはできません。システムIDの初期値は0で、0~99に変更できます。リモコン接続については、“リモコン接続”部分を参照してください。

“言語”項目を選択して英語か日本語を選択することができます。

“バージョン”項目にはソフトウェアバージョンが表示されます。ソフトウェアをアップグレードするには、アップグレードパッケージファイルのあるUSB装置をDVRに接続します。NetFS機能が使用中の場合(ネットワーク>NetFS)、登録されたFTPサイトからファイルをダウンロードできます。“アップグレード...”を選択すると検索画面が表示され、USBメモリまたはNetFSを選択できます。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。アップグレード設定窓が現れます。アップグレードパッケージを選択してから、“設置”ボタンを選択してソフトウェアをアップグレードします。



アップグレードパッケージの中にnuiのファイルはシステムアップグレード用です。USBに保存されたプログラムが読み込めない場合には、マウントに失敗したという画面が表示されます。成功した場合には装置が自動的に再起動され、それからアップグレードされたバージョンのソフトウェアが実行されます。

“設定”項目でDVR設定を保存したり読み込むことができます。保存されている設定ファイルを読み込む場合にはDVRの設定ファイルが保存されているUSB保存装置をDVRに接続します。NetFS機能が使用中の場合(ネットワーク > NetFS)、登録されたFTPサイトから設定ファイルをダウンロードできます。“設定-読み...”を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。



“ファイル名”で設定ファイルを選択してから“読み”ボタンを選択します。この時、ネットワーク設定も共に読み込むかを選択できます。“ネットワーク設定含み”を選択しないとDVRのネットワーク設定は変更されません。

“設定-保存...”を選択するとUSB保存装置に“ファイル名”項目で入力したファイル名で設定ファイルが保存されます。NetFS機能が使用中の場合(ネットワーク > NetFS)、登録されたFTPサイトに設定ファイルをアップロードできます。“設定-保存...”を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。



注意: 設定読み込みを行ってもシステムの時間関連の設定は変更されません。(日付/時間/標準時間帯/サマータイム)

注意: システムアップグレード及び設定読み込み/保存用USBドライブのファイルシステムは、必ずFAT16かFAT32で初期化したものを使用してください。

“システムログ表示...”を選択して、システムログリストの検索ができます。ここに表示されるシステムログのタイプは、“付録-システムログとエラーコードタイプ”を参照してください。システムログは最近5,000件まで表示されます。もし、遠隔接続で記録されたログの場合、一番右側の欄に品アイコンが表示されます。

システムログ

時間	タイプ
2016/01/14 10:31:21	設定スタート
2016/01/14 10:31:19	ログイン: admin
2016/01/14 10:30:47	ログアウト: admin
2016/01/14 10:30:45	設定終了
2016/01/14 10:30:20	設定変更: システム
2016/01/14 10:30:15	設定変更: システム
2016/01/14 10:29:31	緊急録画スタート
2016/01/14 10:29:17	設定スタート
2016/01/14 10:28:59	ログイン: admin
2016/01/14 10:28:38	ログアウト: admin
2016/01/14 10:28:36	設定終了
2016/01/14 10:28:23	緊急録画終了
2016/01/14 10:27:18	設定スタート
2016/01/14 10:26:27	緊急録画スタート
2016/01/14 10:26:23	緊急録画終了

1 / 2 保存... 閉じる

“システムログ”画面で“保存...”を選ぶとUSBに接続された保存装置に“ファイル名”の項目で入力したファイル名でログ情報を保存します。NetFS機能が使用中の場合(ネットワーク>NetFS)、登録されたFTPサイトにログ情報をアップロードできます。保存を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。

システムログ保存

ファイル名

保存 キャンセル

参考: 保存したシステムログ.txtファイルを開く場合、ファイルの内容を見るには、適切な文字エンコードに設定し、固定幅のフォントを使います。

“録画データ-開始”項目には、録画されたデータの最初の時間が表示され、“録画データ-終了”項目には、録画されたデータの最後の時間が表示されます。

“ウィザード”選択すると設定ウィザードを通じてシステムの運営に必要な基本設定ができます。

ウィザード選択: 設定ウィザード

設定ウィザードはDVRをよりたやすく設定するに手伝います

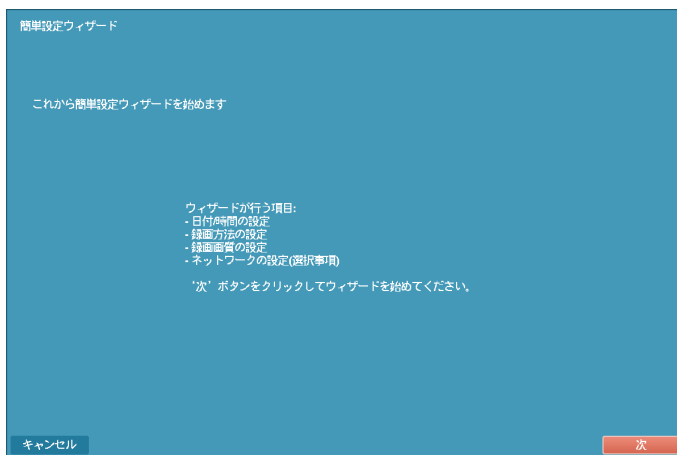
以下の項目の中でご希望の項目をお選び下さい

- 簡単設定ウィザード: DVR 設定ウィザード
- ネットワークウィザード: ネットワーク設定ウィザード

キャンセル 次

簡単設定ウィザードかネットワークウィザードの中でご希望の設定ウィザードオプションを選択してから、“次”を選択し、その設定ウィザードを始めます。

参考: ウィザード画面の全体で“キャンセル”を選択すると変更された設定をキャンセルし、メイン設定メニュー画面に戻ります。



“次”を選択して簡単設定ウィザードを始めます。



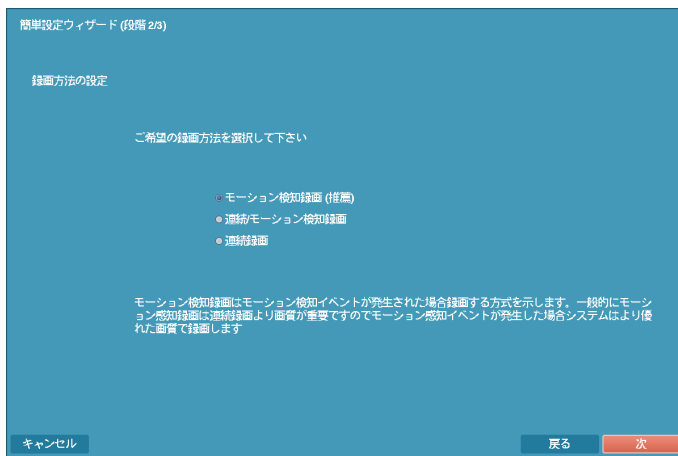
日付/時間の設定

“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時間”を選択すると、矢印ボタンを利用して時間を変更できます。“日付-表示方式”と“時間-表示方式”を選択すると、日付表示方式と時間表示方式を変更できます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用したりマウスホイールを上/下に動かしてご希望の標準時間帯を選択することもできます。

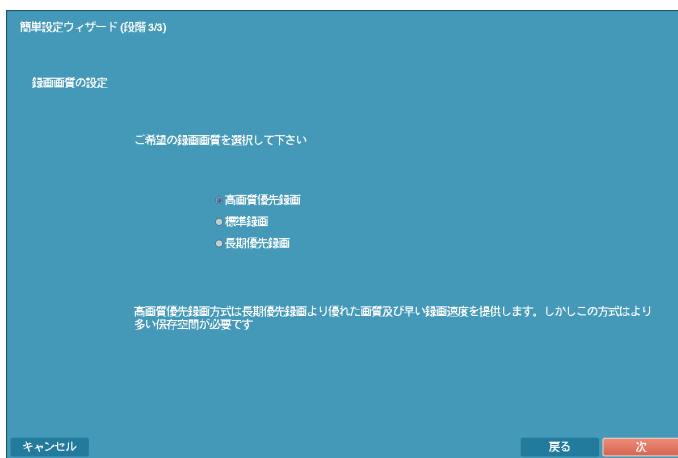
“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

参考: 変更された日付/時間の設定値は“次”を選択した後、システムに適用されます。



録画方法の設定

ご希望の“録画方法”を選択します。



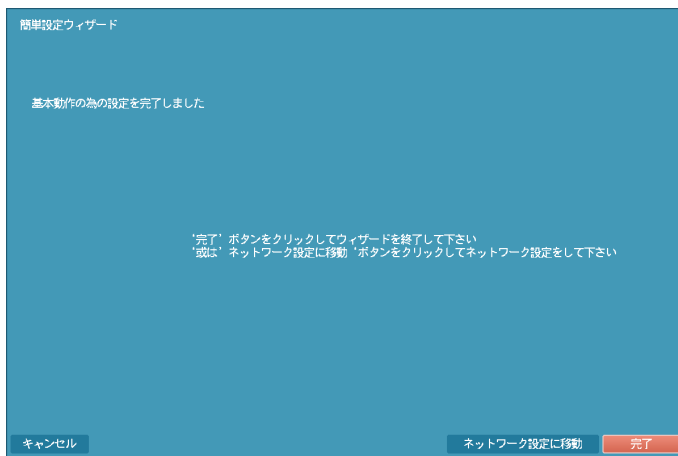
録画面質の設定

ご希望の“録画面質”を選択します。

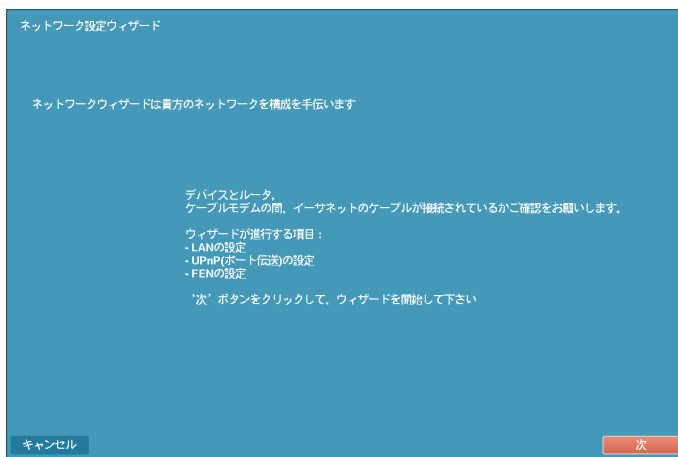
参考: 高画質を選択すればするほどハードディスクで大きい空間を占めます。

参考: 選択した録画方法式及び画質によってチャンネル当たりの 録画面質、解像度及び録画速度は以下のようです。

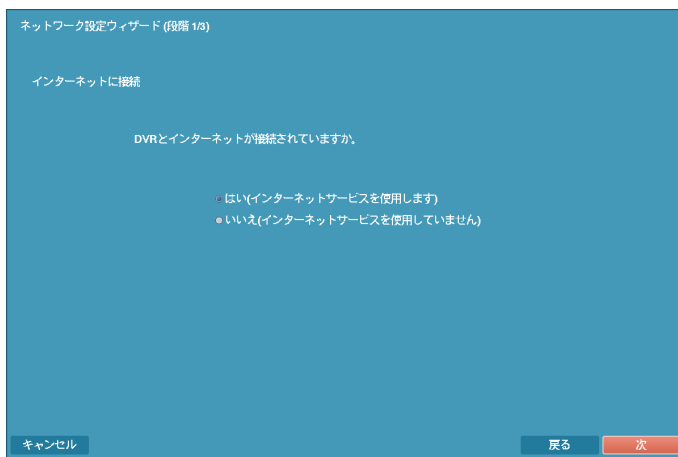
	高画質優先録画	標準録画	長期優先録画
モーション検知録画	最高 / 最高 / 30 ips	高 / 最高 / 15 ips	標準 / 高 / 5 ips
連続/モーション検知録画	連続、モーション: 最高 / 最高 / 30 ips	連続: 高 / 最高 / 15 ips モーション: 最高 / 最高 / 30 ips	連続: 標準 / 高 / 5 ips モーション: 高 / 最高 / 15 ips
連続録画	最高 / 最高 / 30 ips	高 / 最高 / 15 ips	標準 / 高 / 5 ips



“完了”を選択すると簡単設定ウィザードを完了します。“ネットワーク設定に移動”を選択するとネットワーク設定ウィザードを始めます。

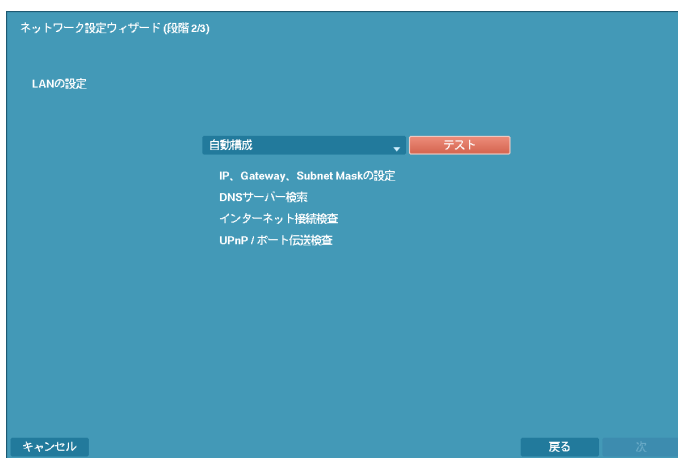


“次”を選択してネットワーク設定ウィザードを始めます。



インターネットに接続

インターネットに接続されているか選択します。

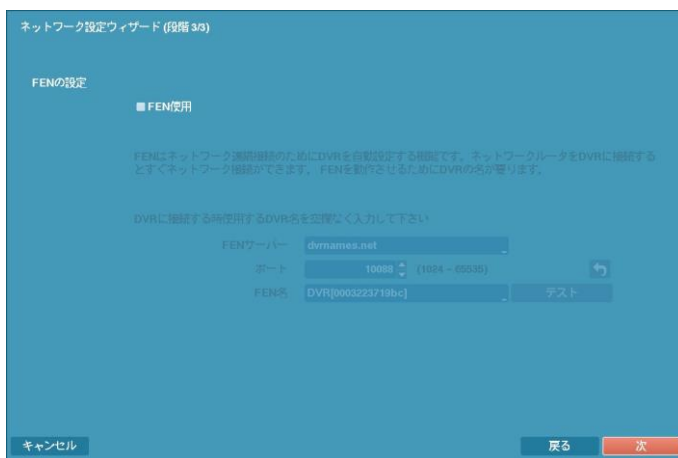


LANの設定

“自動構成”及び“手動構成”の中でご希望のネットワーク構成を選択して“テスト”を選択し、そのネットワーク構成を使用するか確認することができます。

参考:“自動構成”を選択するとIPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク、DNSサーバーのアドレスなどLAN設定値を自動に取得します。“手動構成”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することができます。

参考:“テスト”を選択し、そのネットワーク構成が使用可能であるか確認していなかった場合、次の設定に移動できる“次”のボタンを押すことができません。

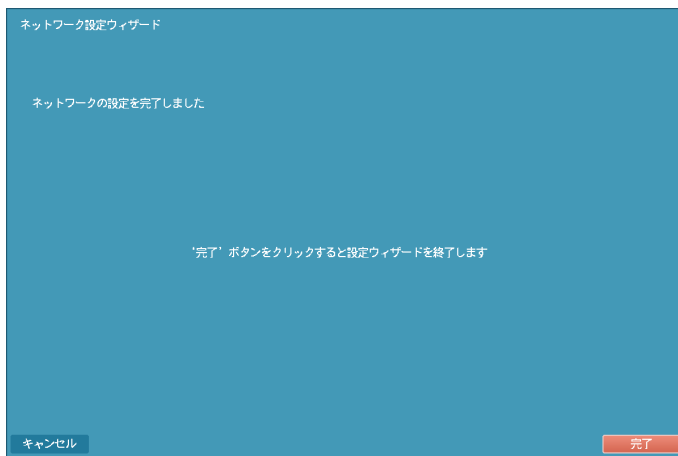


FENの設定

“FEN名”を選択してFENサーバーに登録するDVR名を入力後“確認”を選択して入力したネームが使用できるかを確認できます。

参考: “確認”を選択して入力したFEN名を確認しなければFEN設定を保存できません。

参考: 名前を入力しないか、FENサーバーに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。



“完了”を選択して設定ウィザードを完了します。



“トラブルシューティングレポート”部分を選択して  ボタンを押すかマウスをクリックすると、問題のトラブルシューティングのために生成されレポートをエクスポートできます。



“システム終了”を選択すると確認設定画面が表示され、もう一度“システム終了”を選択するとシステムは正常終了します。

日時/時間

図 10: システム – 日時/時間設定画面

“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時間”を選択すると、矢印ボタンを利用して時間を変更できます。“日付–表示方式”と“時間–表示方式”を選択すると、日付表示方式と時間表示方式を変更できます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用するか、マウスホイールを上/下に動かしてご希望の標準時間帯を選択することもできます。“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

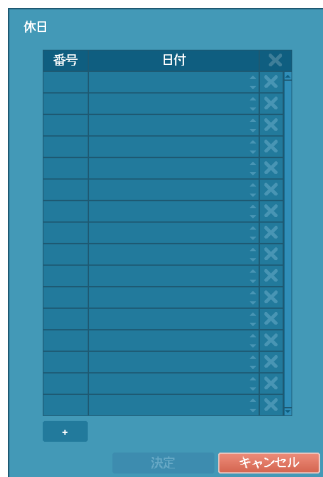
“タイムサーバー”を選択すると、タイムサーバーを選んでサーバーとの時間同期化設定ができます。

“自動調整”項目を選択してから、“タイムサーバー”のIPアドレスかドメイン名を入力したり ★ を選択して登録されているタイムサーバーリストよりご希望のタイムサーバーを選択して、“調整間隔”を設定すると、調整間隔毎にタイムサーバーと時間を同期するようになります。“前回調整日時”項目は、最後に同期の行われた時間を表示します。

参考:“ネットワーク – LAN”設定で、DNSサーバーを設定するとタイムサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

“サーバー作動”を選択すると、本装置がSNTPサーバーとして動作するようになり、他の装置をこの装置の時間に同期させることが可能になります。

“休日”を選択すると、休日の追加及び削除ができます。



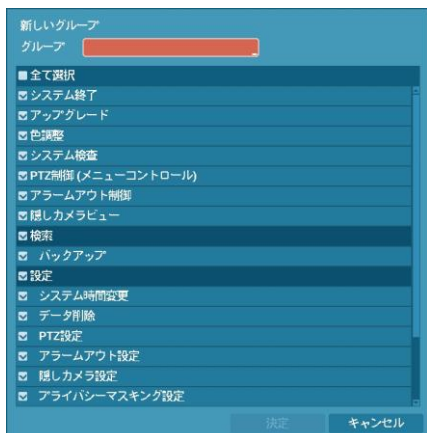
設定画面下段の“+”を選択して、任意の日付を休日に追加します。設定された日付の右側の  表示を押して設定された休日を削除します。設定された休日の日には、録画スケジュール設定で設定した休日スケジュールに従って録画が行われるようになります。

ユーザー



図 11: システム - ユーザー設定画面

“+ グループ...”を選択するとキーボード入力画面が現れ、最高15文字までグループ名を指定できます。グループ名を指定してから、該当グループの“権限”を選択します。設定できる権限のタイプとその内容は次の通りです。



- システム終了：ローカルでシステム終了を遂行できる権限で、システムメニューで“システム終了...”を実行できます。
- アップグレード：ローカルとTB viewerでシステムアップグレードを遂行できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“アップグレード”を実行できます。
- 色調整：ローカルとTB viewerで各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調値を調整できる権限です(各カメラのボタンをずっと押していると、色相調節画面が表示されます)。
- システム検査：TB viewerでシステム検査の結果であるシステム状態を見ることのできる権限で、TB VIEWERで一括作業によってシステム検査を実行できます。
- PTZ制御 (メニューコントロール)：ローカルとTB viewerで各カメラのPTZを制御できる権限で、カメラ操作ボタンを押してPTZカメラを選択してから、PTZ関連ボタンによって制御できます。
- アラームアウト制御：ローカルとTB viewerでアラーム出力が発生した場合、これをリセットできる権限で、システムの前面パネル、リモコンのどのボタン、あるいはTB VIEWERのアラーム出力制御ボタンを押してアラーム出力をリセットできます。
- 隠しカメラビュー：ローカルとTB VIEWERで監視モードや検索モードで隠しカメラに設定されたカメラを見ることのできる権限です。
- 検索：ローカルとTB VIEWERで保存された映像を検索できる権限です。
- バックアップ：ローカルとTB VIEWERでバックアップできる権限です。
- 設定：ローカルとTB VIEWERでシステムを設定できる権限で、この権限がない場合は、システム終了とログアウトを除いた全ての環境設定を遂行することができません。
- システム時間の変更：ローカルとTB VIEWERでシステムの日付/時間を変更できる権限で、システムメニューで“日付/時間”の設定を実行できます。
- データ削除：ローカルとTB VIEWERでシステムの保存データを消すことのできる権限で、システムメニューでHDD設定の“初期化”を実行できます。
- PTZ設定：ローカルとTB VIEWERでPTZの設定ができる権限です。
- アラームアウト設定：ローカルとTB VIEWERでアラームアウトの設定ができる権限です。
- 隠しカメラ設定：ローカルとTB VIEWERで隠しカメラの設定ができる権限です。
- プライバシーマスキング設定：ローカルとTB VIEWERでプライバシーマスキングの設定ができる権限です。
- 録画設定：ローカルとTB VIEWERで録画設定部分に属する環境設定を行える権限です。
- 設定読込：ローカルとTB VIEWERで以前保存したDVRの設定を読み込みできる権限です。
- 設定保存：ローカルとTB VIEWERで現在のDVRの設定を保存できる権限です。
- VNC設定：ローカルとTB VIEWERでVNCの設定ができる権限です。



“+ ユーザー...”を選択するとキーボード入力画面が表示され、ユーザー名を指定できます。ユーザー名を入力してからユーザーが属するグループを指定し、パスワードを入力します。パスワードは最大16文字まで指定できます。

参考: 前面パネルを使用できない場合にはマウスの右ボタンを用いてパスワード項目の右側の **...** ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法—仮想キーボードを用いた文字入力”部分を参照してください。

上で作られたグループとユーザー項目右側の  表示を選択する場合、グループやユーザーを消すことができ、グループ“Administrator”とユーザー“admin”は削除できません。画面上段に“ユーザーとグループ”タイトル右側の  表示を利用して、グループAdministratorとユーザーadminを除いた全てのグループとユーザーを削除できます。システムまたは遠隔ソフトウェアで該当のシステムに現在ログインされている使用者はログアウトの状態でのみ削除できます。

すでに出来ているグループやユーザーを選択して、その設定値を変更することができます。ユーザーの設定値を変えるためには、パスワードを入力しなければなりません。グループAdministratorの権限オプションは変更できません。ユーザーadminを選択した場合、パスワード以外の他の情報は変更できません。

“自動ログイン”を選択して“しない”とユーザーアカウントのうち一つを選択することができ、システムが起動したとき選択されたユーザーアカウントで自動的にログインします。“自動ログアウト”を選択して時間を設定すると、システムに設定された時間の間、操作がない場合は自動的にログアウトします。

HDD



図 12: システム－HDD設定画面

“タイプ”項目には、設置されたディスクのタイプが表示され、“容量”項目には各ディスクの容量が表示されます。

“初期化”項目には初期化されたディスクの場合“録画”、“使用しない”の中に使用目的に合ったものが表示されます。初期化されていない保存媒体が接続された場合には“初期化されていません”と表示されます。



各ディスクの“初期化”を選択して録画用に初期化ができます。用途を“使用しない”に選択してフォーマットすると該当ディスクは録画用に使用されません。



“情報”項目には設置されたディスクのモデル名及びシリアルナンバーが表示され、ディスクが録画のために使われているかどうかが表示されます。他のシステムで使用されたディスクを接続した場合“外部”に表示されます。各ディスクの“情報”を選択して保存データの時間情報が確認できます。

システムイベント

システムイベント	設定	動作
システム	しない	目
システムスタート		目
システム再起動		目
システム終了		目
緊急画面		
録画を確認	オフ	目
アラームインを確認	オフ	目
ディスクフル警告	90%	目
ディスクフル		目
ディスクエラー	50%	目
ディスク温度	70℃	目
ディスク S.M.A.R.T.		目
ディスク構成変更		目
ファンエラー		目
保存デバイスなし		目

図 13: システム-システムイベント設定画面

“設定”の項目で各システムイベントの監視周期と監視項目の設定できます。

- システム：監視の周期を設定することができ、定期的なシステム自己点検が動作しないと異常と判断します。
- 録画を確認：正常に録画スケジュールが設定されていても、設定されたスケジュールの日程上の監視周期の間に録画データが無ければ録画エラーに判断します。

[illegible]

“スケジュールオン”を選択してから曜日、時間範囲及び検査間隔を設定します。設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。☒を選択すると検査スケジュールを削除することができます。

- ・ アラームインを確認：監視周期の設定ができ、アラームインが有効化されているのに設定された監視周期中にアラームイン状態に変化が生じない場合、異常と見なします。
- ・ ディスクフル警告：比率を80~99%まで設定でき、全体のディスク容量のうちその比率に上回る場合、イベントを発生させます。
- ・ ディスクエラー：比率を10~90%まで10%単位で設定でき、全体のディスク容量のうちのその比率に上回って損傷して、それ以上使用できない場合、イベントを発生させます。
- ・ ディスク温度-臨界温度が設定でき、HDDのどれか一つでも温度がこの臨界温度値と同じになったり高くなった場合、イベントを発生させます。

“動作”の項目で各システムイベントが発生した際に実行されるアラーム出力(チャンネル、アラーム音)とお知らせ(メール、LAN1~5、警告ウィンドウ)機能が設定できます。

参考: イベント項目によって動作の設定可能内容が異なります。

参考: “システム”イベントの場合、通知(メール、LAN1~5)だけが選択できます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

録画設定

一般

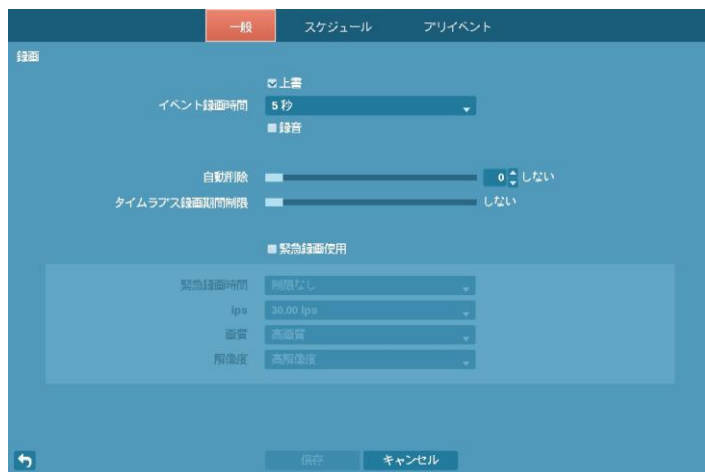


図 14: 録画—一般設定画面

“上書”を選択した場合、録画ディスクが一杯になると古いデータから消去され、新しいデータが保存されます。“上書”を解除した場合は、録画ディスクが一杯になると録画が中止されます。ディスプレイ設定メニューで“残容量”を選択すると画面に残容量が表示されます。

“イベント録画期間”を5秒から30分まで設定できます。イベント発生時の動作で連動録画が指定されている場合、そのイベント録画期間で指定した時間だけ連動録画が実行されます。

本DVRは4チャンネルオーディオ録音をサポートします。“録音”を選択するとカメラが録画される場合オーディオも一緒に録音されます。

“自動削除”を設定すると設定した期間が過ぎたら録画データを削除することができます。削除可能な期間は最小1日より最大99日まで設定でき、自動削除機能を使用したくない場合には“しない”に設定してください。例えば、“自動削除”を選択して期間を“30日”に設定すると現在時刻より30日前以降の時刻録画データのみ保存し、それより古い録画データは自動に削除されます。録画データは毎日24時に自動削除され、設定で“自動削除”設定を変更した時にも削除されます。

“タイムラプス録画期間制限”を設定してイベント録画映像をより長期間保存することができます。制限期間は1日より最大99日まで設定することが可能であり、タイムラプス録画期間制限機能を使用しないためには“しない”に設定してください。本機能は録画ディスクの容量が十分大きくて設定した期間より前のデータを保存した場合に作動し、上書きモードで録画ディスクがフルになって古いデータが上書きされるようになると設定した期間より前の“タイムラプス録画映像”データを上書きして新しいデータを保存します。

参考: ディスクへ保存した映像の期間が設定した“タイムラプス録画期間制限”期間より短い場合は普段と同じく“イベント録画映像”と“タイムラプス録画映像”の中で古いデータを上書きします。

参考: 録画画質及び解像度、モーションあるいはその他のユーザーの設定内容によってシステムの録画期間が変更されることもあるため場合によっては“タイムラプス録画期間制限”より設定した期間が保証されない場合もあります。

“緊急録画使用”を選択して緊急録画機能を用いるかどうかを設定できます。

“緊急録画時間”を設定して緊急録画を自動的に解除することができます。緊急録画時間は5分~1時間まで設定でき、自動解除機能を使用しない場合は“制限なし”に設定してください。

“ips”、“画質”、“解像度”項目で緊急録画の際の録画速度、画質、解像度を設定できます。“画質”値は、“最高”、“高”、“標準”、“低”に変更ができ、“解像度”値は、“最高”、“高”、“標準”に変更できます。

スケジュール



<単純モード>



<高級モード>

図 15: 録画スケジュール設定画面

“スケジュールオン”を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。この状況はユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラ画面の左上段に🔴アイコンが表示されます。その場合、**緊急録画**ボタンを押すと🔴表示と共に緊急録画は遂行されます。

録画スケジュールのモードを“単純モード”と“高級モード”のどちらかを選択することができます。“高級モード”を選択すると各イベントについて別々の録画スケジュールを設定することができます。

参考: 録画スケジュールモードを変更すると変更時動作していたイベント連動アクションを停止します。

設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。

録画スケジュールを設定する“曜日”の選択ができます。“範囲”を選択して望みの時間範囲の選択ができます。

“モード”を“録画しない”、“連続録画”、“イベント”または“指定時間及びイベント”に設定することができます。(単純モードに限る)

“モード”を“録画しない”に設定することができ、その場合には**緊急録画**ボタンを押さない限りスケジュール上の該当曜日、時間の範囲の中では録画はされません。

“モード”を“連続録画”に設定すると、画面左上段に🔴が表示され、スケジュールされた時間帯ならば🔴が画面左上段に表示されて録画が進行します。

“モード”を“イベント”に設定すると、画面左上段に赤い🔴が表示され、そのイベントが発生すると🔴が表示されて録画が進行します。プリイベント設定になっていると、イベントが発生せず録画されていない時は黄色い🔴と🔴が表示されます。イベントが発生してプリイベント録画が行なわれている場合は赤い🔴と🔴が表示されます。

“モード”を“指定時間及びイベント”に設定すると、画面の上に🔴が表示され、時間に合った画質で録画され、イベントが発生すると赤い🔴に変わり、イベントに合った画質で録画されます。

“チャンネル”を選択してスケジュールを適用するカメラを選択できます。(単純モードに限る)

“設定”を選択すると、“ips”、“画質”、“解像度”を設定できます。別途に設定しなければ下図の“初期値...”で設定した初期値に従うようになります。高級モードでは各イベントに対する連動イベント録画期間を設定することができます。



図 16: スケジュール-設定(高級モード)設定画面

参考: “タイプ”項目から表示するアイコンの意味は下記の通りです。

	タイムラプス(連続録画)		アラーム入力		モーション		トリップゾーン
	映像信号なし		映像遮断		テキストイン		

参考: スケジュールの高級モード設定メニューから設定していないチャンネルは上位スケジュールの設定値が適用されます。

参考: 高級モードが設定されている場合、特定チャンネルで複数のイベントが発生して録画する場合、各イベント録画に対する“ips”、“画質”、“解像度”及び“時間”の設定値が異なるとより高い設定値を適用します。ただし、“ips”、“画質”及び“解像度”がすべて最大値に設定されている場合は“ips”はシステムがサポートする最大設定値を適用します。

☒ を選択してスケジュールを削除することができます。

参考: 高級モードが設定されている場合、解像度の設定時、イベント別の一括設定やイベントの各チャンネル別の個別設定ができます。イベント別の一括設定では“最高”、“高”、“標準”の中で一つを選択します。“最高”を選択した場合、各カメラモード(720、960、HD、Full HD)で対応する最高の解像度を、“標準”を選択した場合は最低の解像度を、“高”を選択した場合はその以外の解像度を適用します。イベントの各チャンネル別の個別設定では各カメラのモードで該当モードが対応する解像度を選択することができます。

✓(最高)	✓(720X480)	✓(960X480)	✓(1280X720)	✓(1920X1080)
最高	720X480	960X480	1280X720	1920X1080
高解像度	720X240	960X240	720X480	1280X720
標準	360X240	480X240	360X240	720X480

<イベント別の設定>

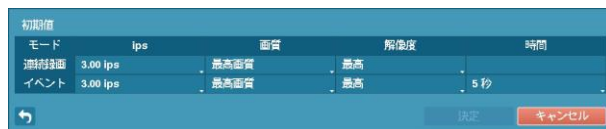
<カメラモード- 720 >

<カメラモード - 960 >

<カメラモード - HD >

<カメラモード - Full HD >

参考: スケジュール上でダブった区間については、下の列のスケジュールが上の列のスケジュールに優先して適用されます。



“初期値...”を選択して連続録画及びイベント録画モードの録画速度、画質、解像度の初期値をそれぞれ設定することができます。各スケジュールに他の設定がない場合“初期値(連続録画及びイベント録画)”に設定されている録画速度、画質、解像度で連続録画及びイベント録画が行われます。高级模式ではイベント録画期間を設定することが可能であり、イベント発生の場合は連動録画が設定されていたら指定した時間分連動録画が行われます。

プライベート



図 17: 録画－プライベート設定画面

もしスケジュール上にイベントモードスケジュールが一つもない場合は、プライベート録画のためにイベントモードスケジュールをリストに追加するようにアラームメッセージが表示されます。

参考: “指定時間及びイベント”モードの場合にもアラームメッセージが表示されます。

“番号”を選択/解除して、プライベートを設定するカメラを選択/解除できます。

録画する“fps”、“画質”、“解像度”を設定できます。

“時間”を設定できます。

参考: 連続録画時間中はプライベート録画が無効であること。

イベント設定

モーション



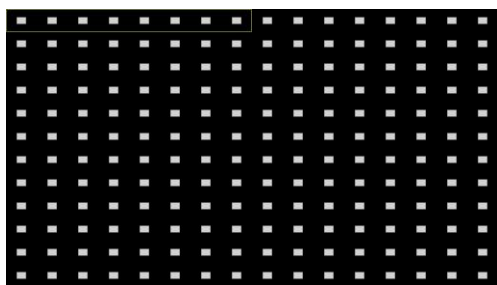
図 18: イベント-モーション設定画面

“番号”を選択/解除して、モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

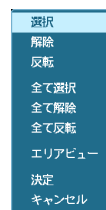


“感度”を選択するとモーション感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1(低感度)~5(高感度)の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。

各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面がモーション感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はモーション感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。



エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。選択画面は8個のブロックサイズの一列に該当します。カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで $\odot$ ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。



エリア設定で、“選択”は一列に該当するブロックを選択し、“解除”は一列に該当するブロックを解除します。“反転”は、一列に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“エリアビュー”を選択してモーションに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。



“ミニマムブロック”を選択するとモーション感知のミニマムブロックを設定する画面が表示されます。設定したブロックの個数以上のエリアでモーションが発生したらモーション感知イベントが発生します。昼間と夜間を区分して設定することができます。

“エリアビュー”を選択してモーションに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。

“動作”を選択してモーション感知時に行う動作を設定することができます。

- ・録画: モーション感知時に連動録画するカメラを選択することができます。モーション感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・アラーム出力: モーション感知時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・通知: モーション感知時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- ・PTZ: モーション感知時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。
- ・感知無視間隔: 感知無視間隔”を設定するとモーションが感知された以後、設定した間隔の間に発生するモーションに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒~10秒または“しない”を選択することができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

参考: “モーション感知無視間隔”を設定してもモーション感知連動録画は録画設定の通り録画します。



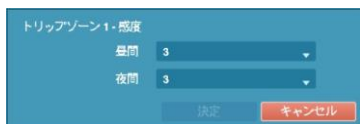
“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

トリップゾーン



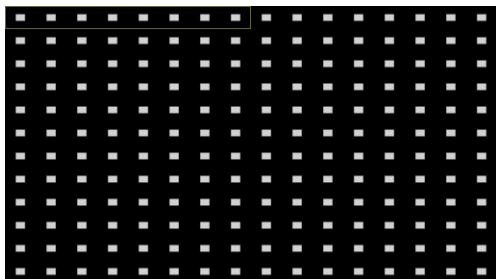
図 19: イベントトリップゾーン設定画面

“番号”を選択/解除して、トリップゾーン感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。



“感度”を選択するとトリップゾーン感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1(低感度)~5(高感度)の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。

各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面がトリップゾーン感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はトリップゾーン感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。



エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。選択画面は8個のブロックサイズの一列に該当します。カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで $\odot$ ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。



エリア設定で、“選択”は一列に該当するブロックを選択し、“解除”は一列に該当するブロックを解除します。“反転”は、一列に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“エリアビュー”を選択してトリップゾーンに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したトリップゾーン感知エリアが表示され、エリア内の外部から内側に向かうトリップゾーン感知は青色枠で表示されます。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。

“動作”を選択してトリップゾーン感知時に行う動作を設定することができます。

- 録画: トリップゾーン感知時に連動録画するカメラを選択することができます。トリップゾーン感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- アラーム出力: トリップゾーン感知時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- 通知: トリップゾーン感知時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- PTZ: トリップゾーン感知時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRをTB-Viewerに登録する必要があります。

“トリップゾーン感知無視間隔”を設定するとトリップゾーンが感知された以後、設定した間隔の間に発生するトリップゾーンに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒~10秒または“しない”を選択することができます。

参考: “トリップゾーン感知無視間隔”を設定してもトリップゾーン感知連動録画は録画設定の通り録画します。



“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

アラーム入力

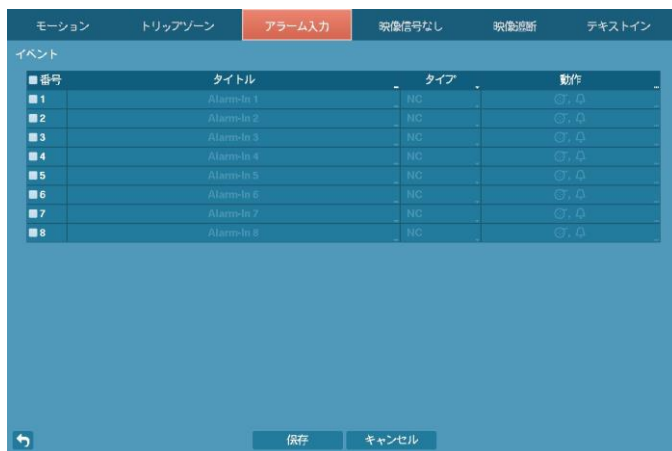


図 20: イベント→アラーム入力設定画面

“番号”を選択/解除して、アラーム入力を選択/解除できます。

“タイトル”を選択してキーボード入力画面を使用し、タイトルの入力ができます。

“タイプ”を選択してアラームのタイプを変更することができます。

“動作”を選択してアラーム入力の発生時、実行する動作を設定することができます。

- **録画:** アラーム入力発生時に連動録画するカメラを選択することができます。アラーム入力が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- **アラーム出力:** アラーム入力発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- **通知:** アラーム入力発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- **PTZ:** アラーム入力発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

映像信号なし

番号	ビデオロス検知期間	動作
1	2.0 秒	...
2	2.0 秒	...
3	2.0 秒	...
4	2.0 秒	...
5	2.0 秒	...
6	2.0 秒	...
7	2.0 秒	...
8	2.0 秒	...

■ 無視時間使用 時間設定...

保存 キャンセル

図 21: イベント-映像信号なし設定画面

“ビデオロス検知期間”は映像信号なしが感知された後、状態が持続して映像信号なしのイベントを発生させる基準時間です。従って、映像信号なしが感知されても、設定した期間以内に再び映像信号が元通りになった場合、映像信号なしのイベントとみなしません。

“動作”を選択して映像信号なしが発生時に実行する動作を設定することができます。

- **録画:** 映像信号なしが発生時に連動録画するカメラを選択することができます。映像信号なしが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- **アラーム出力:** 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- **通知:** 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- **PTZ:** 映像信号なしが発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

“無視時間使用”を選ぶと、設定した時間の間、映像信号なし感知機能が作動しません。“時間設定...”を選択して映像信号検知無視間隔を設定します。

映像遮断

■ 番号	感度	活性化時間	動作
■ 1	1/1	5秒	□
■ 2	1/1	5秒	□
■ 3	1/1	5秒	□
■ 4	1/1	5秒	□
■ 5	1/1	5秒	□
■ 6	1/1	5秒	□
■ 7	1/1	5秒	□
■ 8	1/1	5秒	□

■ 無視時間使用 時間設定...

保存 キャンセル

図 22: イベント－映像遮断設定画面

“番号”を選択/解除して、映像遮断感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

“感度”を選択して、0(使用しない)または1(低い)~15(高い)の間の値に感度値を変更することができ、黒および白をそれぞれ設定します。

参考: ノイズのひどいカメラの場合、感度を低く設定すると映像遮断が感知されない恐れがあります。

“有効化時間”は映像遮断が感知されてから、映像遮断イベントを発生させる基準時間です。したがって、映像遮断が感知されても設定された有効化時間以内に再び映像信号が元通りに回復されたら映像遮断イベントは発生しません。

“動作”を選択して映像遮断が発生時、行う動作を設定することができます。

- ・ **録画:** 映像遮断が発生時に連動録画するカメラを選択することができます。映像遮断が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が実行されます。
- ・ **アラーム出力:** 映像遮断が発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・ **通知:** 映像遮断が発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- ・ **PTZ:** 映像遮断が発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

“無視時間使用”を選択すると設定した間、映像遮断感知機能が作動しません。“時間設定...”を選択して映像遮断無視間隔を設定します。

テキストイン

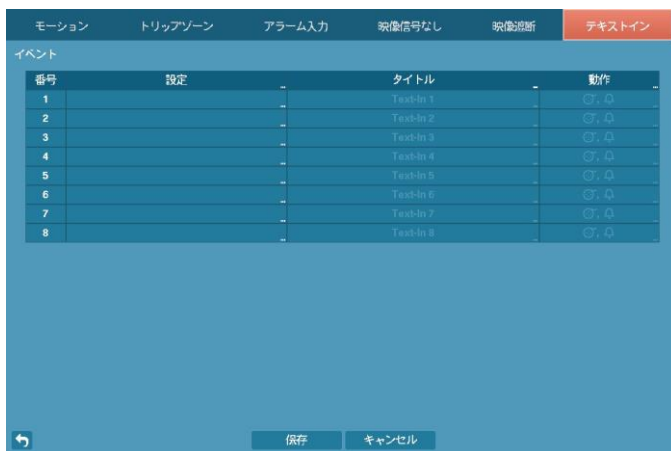
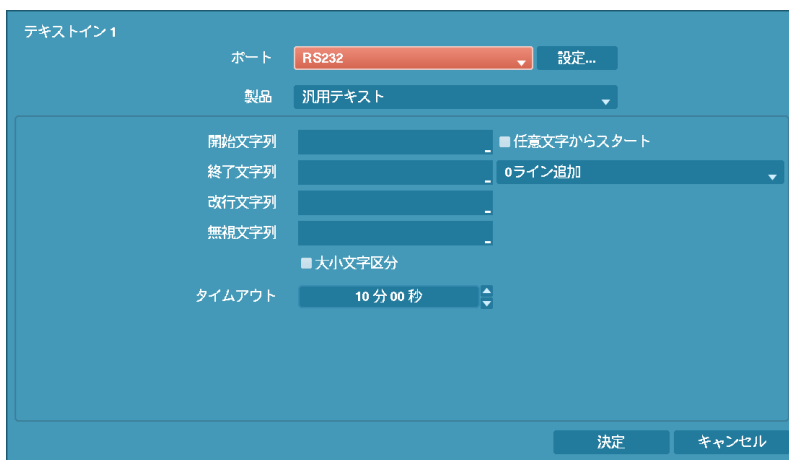


図 23: イベントーテキストイン設定画面

各番号の“設定”を選択して該当番号のテキストイン装置を選択することができます。また“設定”タイトルを選択するとポート設定を除いた他の設定を全てのテキストイン装置にできます。

参考: 多くのチャンネルに大量のテキストインが同時に入力されるとシステムの性能に影響を与えるおそれがあります。



ポートをRS232、RS485、USB-Serial 1~8、LAN 1~8の中でひとつを選択する場合、ポート設定ボタンが有効化します。“設定”ボタンを押して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を正しく設定してください。

参考: USB-シリアルポートを使用する場合、システム移動中USBケーブルを抜くとテキストイン機能が誤動作する場合があります。

テキストインの“製品”を選択すると、ポート設定の下部分が該当テキストイン装置に合わせて設定画面が変更表示されます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関連した設定内容です。

“開始文字列”を選択すると、これに該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションがスタートするものと認識します。開始文字列を“任意文字からスタート”に指定することができます。その場合、どんな文字が入力されても一つのトランザクションがスタートするものと認識します。

“終了文字列”を設定すると、該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションが終わるものと認識されます。終了文字列の前に“0ライン追加”を選択して、1~10の間の値で設定することができます。終了文字列で文字列が入力されてから、ここで設定した追加ラインだけさらに入力されると一つのトランザクションが終わったものと認識します。

“改行文字列”を選択して、行の終りを決定する文字列を入力することができます。コントロール文字は  を押して $\wedge$ に続けて文字を選択すれば入力できます。例えば、Carriage Returnは $\wedge M$ で、Line Feed(New Line)は $\wedge J$ です。

“無視文字列”を選択して、トランザクションを記録する場合に除外する文字列を設定することができます。

“大小文字区分”を選択/解除して、“開始文字列”、“終了文字列”、“改行文字列”、“無視文字列”で設定した文字列が大小文字を区分する/しないを選択できます。

参考: コントロール文字の場合、“大小文字区分”の選択有無は影響しません。

“タイムアウト”期間を設定すると最後の文字列が入力されてから設定した時間の間、新しい文字列が入力されない一つのトランザクションを終了します。時間は5秒~15分まで設定することができます。

“タイトル”を選択するとテキストイン装置のタイトルを設定することができます。

“動作”を選択してテキストイン発生時、行う動作を設定することができます。

- **録画:** テキストイン発生時に連動録画するカメラを選択することができます。テキストインが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間及びイベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が実行されます。
- **アラーム出力:** テキストイン発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- **通知:** テキストイン発生時に実行される機能でメール、LAN1~5、警告ウィンドウなどを設定できます。
- **PTZ:** テキストイン発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

カメラ設定

一般



図 24: カメラ一般設定画面

“番号”を選択/解除して、カメラをOn/Offさせることができます。各カメラ番号の横のチェックボックスが選択されていればカメラがOn、空いていればOff状態です。選択されたカメラだけが監視画面に表示され、録画と再生ができます。

“タイトル”を選択すると、カメラのタイトルを設定することができます。

“使用”を選択すると、“普通”、“隠し1”、“隠し2”のうちの一つに変更できます。‘隠し1’が‘隠し2’に設定した場合、‘隠しカメラビュー’の権限がないユーザーがログインすると、該当カメラの映像が監視画面に表示されず、再生時にも該当カメラの映像が再生されません。‘隠し1’と‘隠し2’の違いは、‘隠し1’に設定した場合映像は表示されませんが、各種OSDは表示され、‘隠し2’に設定した場合はカメラが接続されていないように、映像だけでなく各種OSDも表示されません。

“タイプ”を選択すると、カメラが対応するタイプの値を自動、SD、HD-TVI、AHDの中で一つを選択することもできます。“自動”(自動感知)を選択すると、カメラが対応するタイプの値をDVRが自動で感知します。

“モード”を選択すると、カメラが対応する横解像度の値を720、960、HD、Full HD または自動の中で一つを選択することもできます。“自動”(自動感知)を選択すると、カメラが対応する横解像度の値をDVRが自動で感知します。

参考: “モード”を変更した場合、変更された解像度の値を反映するためにシステムが再起動されます。

参考: 自動感知の場合、再起動をしなくても入力した解像度が適用され、720、HD、Full HD モードのみ動作し、960カメラの場合は720モードに設定されます。

PTZ

番号	モデル	ID	最大プリセット	モード
1	なし	0	16	なし
2	なし	0	16	なし
3	なし	0	16	なし
4	なし	0	16	なし
5	なし	0	16	なし
6	なし	0	16	なし
7	なし	0	16	なし
8	なし	0	16	なし

ポート: なし

保存 キャンセル

図 25: カメラ-PTZ設定画面

<RS232/RS485>

“モデル”を選択すると、PTZカメラのタイプを選択しIDを選択すると、該当カメラをPTZモードで操作することができます。

<UTC>

<ACP>

“モード”を選択すると、なし、UTC、RS232 またはRS485の中で一つを選択することもできます。UTCはHDと Full HD カメラのみ使用されます。

参考: カメラによってUTC動作が正常に作動しないことがあります。

保存する際に“最大プリセット”を選択するとカメラが対応するプリセットの数を設定することができます。

参考: カメラが対応する最大プリセットの数を確認してください。設定されている最大プリセットの数がカメラが対応するプリセットの数を超える場合、超過したプリセットに移動時カメラが誤作動することがあります。

“ポート”の項目で、PTZカメラと通信するポートをRS232とRS485のどちらかを選択することができます。この場合、もし遠隔制御、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用している場合は、その別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージが表示されます。ポートをRS232かRS485のどちらかを選択する場合、ポート設定ボタンが活性化し、“設定...”ボタンを押すと、ポートの“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を設定する画面が表示されます。



“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を正しく設定してください。

保存する際にID値が別のPTZのID値と重複するとアラームメッセージが表示されます。ID値が重複しないようにもう一度設定し直してください。

クリッププライバシー

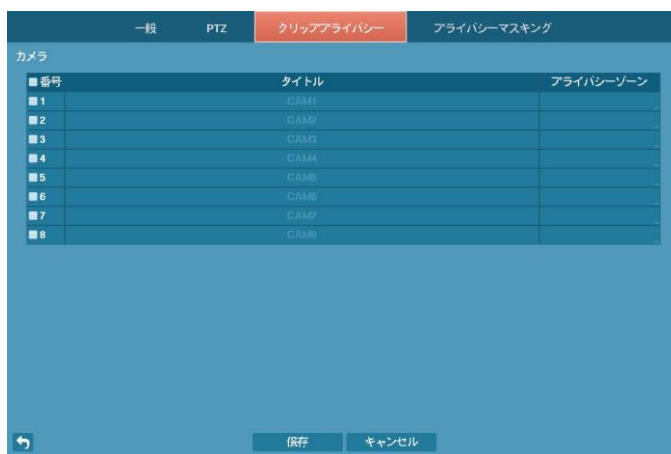


図 26: カメラークリッププライバシー設定画面

“クリッププライバシー”を選択すると、バックアップに適用するプライバシーマスキングゾーンを設定することができます(最大16個)。

“プライバシーゾーン”をクリックすると、当該チャンネルのライブ画面が全画面表示され、マウスでドラッグすることでプライバシーゾーンを設定することができます。



“削除”は選択されたプライバシーマスキングエリアを削除します。“全て削除”は全てのプライバシーマスキングエリアを削除します。“保存”を選択すると、変更事項を保存し、プライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。“キャンセル”を選択すると、変更事項を保存せずにプライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。

参考: SD画像には、マスキング領域を設定する際に制限があります。

プライバシーマスキング

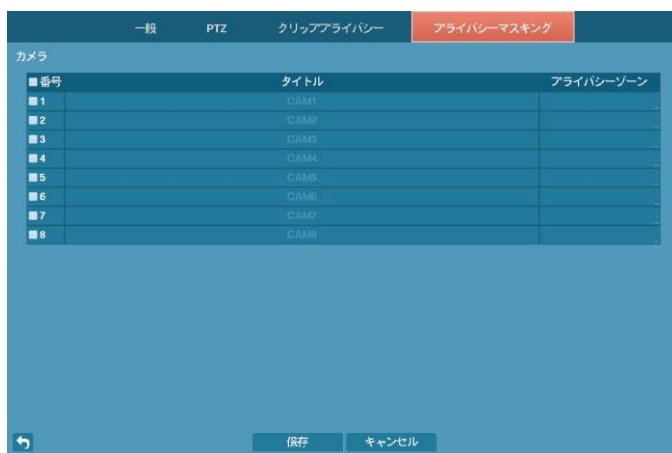


図 27: カメラプライバシーマスキング設定画面

“プライバシーマスキング”を選択すると、ライブや録画画面に適用するプライバシーマスキングを設定することができます（最大4つ）。

“プライバシーゾーン”をクリックすると、当該チャンネルのライブ画面が全画面表示され、マウスでドラッグすることでプライバシーゾーンを設定することができます。



“削除”は選択されたプライバシーマスキングエリアを削除します。“全て削除”は全てのプライバシーマスキングエリアを削除します。“保存”を選択すると、変更事項を保存し、プライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。“キャンセル”を選択すると、変更事項を保存せずにプライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。

参考: SD画像には、マスキング領域を設定する際に制限があります。

装置設定

オーディオ

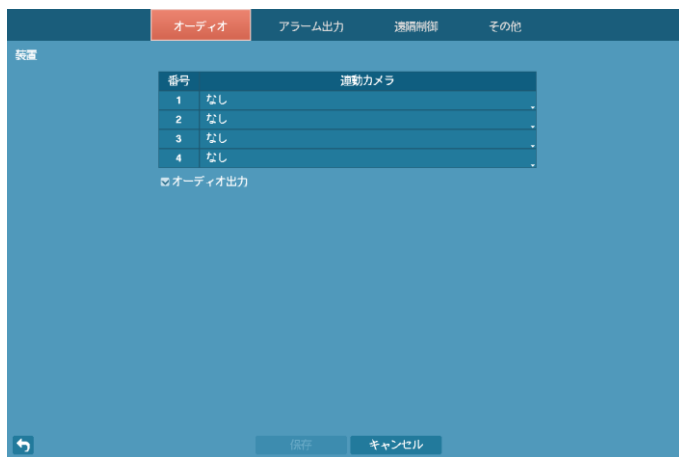


図 28: 装置－オーディオ設定画面

“連動カメラ”を設定して“オーディオ出力”を選択すると、カメラが録画される際に該当チャンネルオーディオも一緒に録音されます。“オーディオ”を選択すると当該チャンネルの全画面を再生する場合、オーディオを再生します。再生時には該当チャンネルの全画面モードでのみオーディオが再生されます。

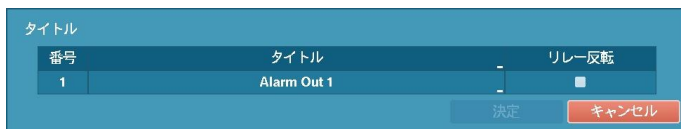
アラーム出力



図 29: 装置－アラーム出力 設定画面

“出力時間”は5秒から30分まで設定できます。アラーム出力はここで設定された時間の間作動します。

“タイトル”を選択して、アラーム出力タイトルを設定できます。



リレー反転ボックスをチェックした場合、DVRの背面パネルに接続されるアラーム出力タイプを反転させることができます(NO→NC)。

スケジュールのリストの左下にある“+”を選択してスケジュールを追加できます。“曜日”別に選択することができ、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更できます。

“モード”では“イベント”、“オン”、“オフ”を選択できます。指定されたスケジュールに従って“イベント”モードならばイベントに連動してアラーム出力が発生するし、“オン”モードならばアラーム出力が無条件でOnになり、“オフ”モードならば無条件でOffになります。

“チャンネル”を選択してアラーム出力するポートとアラーム音のon/offを指定できます。

X ボタンを選択してスケジュールを消すことができます。

遠隔制御



図 30: 装置 – 遠隔制御設定画面

“ポート”を選択すると、RS232かRS485のどちらか一つを選択することができ、その場合PTZカメラテキストインなど別の装置が同一ポートを使用する設定を行うと、ポートが重複してその別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージが表示されます。

“ポート”をRS232またはRS485に選択して、右側の“設定...”を選択して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”を設定することができます。

“遠隔制御製品”の中で遠隔制御製品を選択することができます。

その他



図 31: 装置 – その他の装置設定画面

UPSを別に設定することができます。各装置の“ポート”を選択するとRS232またはRS485の中に一つを選択することができます。この場合、PTZカメラ、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。

“ポート”をRS232またはRS485のいずれか一つを選択し、右側の“設定...”を選択して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”を設定することができます。

ネットワーク設定

一般



図 32: ネットワーク – 一般設定画面

“マルチストリーム”を選択すると一つ以上のストリームに対応することができます。TB-Viewerなどの Client から画面分割モードまたはチャンネルに応じて互いに異なるストリームを使用するように設定することができます。

参考: 再生中、ネットワーク伝送速度が低下する場合があります。

“遠隔監視－bps/ips”を設定すると、設定した速度以下でのみ映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位はbpsまたはipsのどちらかを選択することができます。“遠隔監視－画質”を設定すると、設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。“遠隔監視－解像度”を設定すると、設定した解像度で映像がネットワークに伝送されます。

参考: 映像伝送速度は最高速度です。ネットワーク環境によって設定した速度以下の映像が伝送されることがあります。

“ネットワークバンド幅制限”の項目で、制限したい帯域幅を設定します。

参考: ネットワーク帯域幅を制限する場合、遠隔プログラムの監視映像が不自然な映像になる恐れがあります。

“遠隔オーディオチャンネル”を設定すると、遠隔オーディオ動作時、選択したチャンネルのオーディオがTB VIEWERに伝送されます。“遠隔ソフトより選択”を選ぶとTB VIEWERから選択されたチャンネルのオーディオが伝送されます。

参考: オーディオ伝送時、ネットワーク環境によって音声途切れたり、オーディオ同期が合わないこともあります。

“データ伝送をするためのSSLを適用”を選択すると遠隔プログラムを用いて映像を監視したり録画したりする時、遠隔監視または遠隔録画のために伝送されるデータ(映像及び音声除外)にSSL(Secure Sockets Layer)認証を利用したセキュリティ機能が適用されます。ただし、SSL機能を使用する場合SSL機能のサポートが出来ない遠隔プログラムまたはネットワークキーボードでは本DVRに接続できません。

参考: SSL設定を変更すると、それを反映するためにDVRの遠隔接続がしばらく切断されます。

参考: この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます(<http://www.openssl.org/>)。

LAN

図 33: ネットワーク－LAN設定画面

タイプで手動かDHCPを選択することができます。

“手動”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することができます。“IPアドレス”、“ゲートウェイ”、“サブネットマスク”の各項目を選択して上下矢印ボタンで設定できます。

工場出荷時のLAN設定:

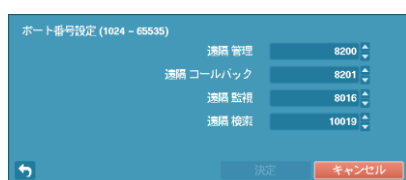
IPアドレス: 192.168.1.200

ゲートウェイ: 192.168.1.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

“DNSサーバー”を選択してDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

“ポート番号設定...”を選択すると遠隔管理/遠隔コールバック/遠隔監視/遠隔検索/遠隔オーディオプログラムの各ポート番号を1024より65535までの番号で選択でき、DVRのポート番号を変更した時PCの遠隔ソフトも同様に変更する必要があります。



工場出荷時のIPポート設定:

遠隔管理: 8200

遠隔コールバック: 8201

遠隔監視: 8016

遠隔検索: 10019

参考: ポートの変更は、ファイアウォールなどを使用する場合に、ファイアウォールで許可されるポート番号に変更する際に使用します。

参考: 各プログラムのポート値は互いに異なっていなければなりません。ポート値が同じ場合はTB VIEWER及びウェブガードにアクセスできません。

注意: ポート値を変更する場合、TB VIEWERの遠隔地点IPポート設定も同じ値に変更してください。詳しい事項は、TB VIEWER取扱説明書を参照してください。

参考: ポートを変更すると、それを反映するためにシステムが再起動されます。

UPnP(Universal Plug and Play、ユニバーサルプラグアンドプレイ)サービスを使用するには“UPnP使用”を選択してください。UPnPサービスを通じてIPルーター(またはNAT)使用時そのデバイスでDVRへのポートフォワーディングを自動に行えます。この機能は私設IPアドレスで構成されたポートに接続する際、活用されます。

参考: UPnPサービスを使用する為には使用するIPルーター(またはNAT)がUPnPポートフォワーディング機能をサポートしなければいけませんし、その機能が使用できるように有効化される必要があります。

参考: “UPnP使用”を選択するとポート番号は変更できません。

“状態”を選択するとUPnPサービスを通じてIPルーター(またはNAT)でDVRにポートフォワーディングされた番号が表示されます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値で、LANの接続状態がテストできます。



“タイプ”で“DHCP”を選択した場合、DHCPでネットワークに接続されているDVRのネットワーク設定ができます。“保存”を選択するとDHCPサーバーからIPアドレスなどのネットワーク情報を自動で受け入れます。ネットワーク情報を受け入れるとIPアドレスの項目にDVRの現在IPアドレスが表示されます。

“自動”(デフォルト値)を選択するとDNSサーバーのIPアドレスを自動に取得します。

参考: “自動”項目の選択はDVRがDHCPネットワークである場合のみ可能です。

参考: DVRの設定がDHCPネットワークの場合、DVRのIPアドレスは接続する度に変わる場合があります。

FEN



図 34: ネットワーク – FEN設定画面

FENサービスを使用するためには、“FEN使用”を選択してください。

参考: FENはインターネット接続を遠隔から確認し、ネットワークを均一に動作させるためにDVRを自動設定させる機能です。ルーターをDVRに接続してポートを設定することで遠隔接続ができます。また、FENを動作させるためにはFEN名が必要です。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバーを正しく設定しないとFENサーバーにドメイン名が使用できません。

参考: “FENサーバー”の初期値は“dvmames.net”、ポート番号の初期値は“10088”です。

“FEN名”を選択してFENサーバーに登録するFEN名を入力します。入力後“確認”を選択して入力したネームが使用できるかどうかを確認できます。

参考: “確認”を選択して入力したFEN名を確認しないとFEN設定を保存できません。

参考: 名前を入力しないか、FENサーバーに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。

“動作状態”項目はランデブーサーバーとの接続状態を見せます。

参考: ユーザーのネットワーク環境により、FENサービスが動作されず、ネットワーク接続ができないこともあります。この場合、ポートをマニュアルで設定する必要があります。ポート設定に関する詳しい内容は“LAN”の設定をご参照ください。

RTSP



図 35: ネットワーク-RTSP設定画面

RTSP(Real-Time Streaming Protocol、ライブストリーミングプロトコル)サービスを使用するには“RTSP使用”を選択してください。

“RTSPポート”を選択してRTSPサーバーのポート番号を選択することができます。

“RTPポート”を選択してRTPスタートポート及び最後ポート番号を選択することができます。

“モバイル使用”を選択するとBlackBerryのようなモバイルデバイスを用いて遠隔地でDVRに接続できます。

参考: “モバイル使用”を選択する場合ネットワーク ウェブガードの設定と関係なくウェブガードは常に使用するように自動的に設定されます。

参考: RTSPサービスをサポートするメディアプレーヤーを通じて遠隔地でDVRに接続してライブ映像を監視することができます。接続方法は以下のようです。

- PCを通じた接続: メディアプレーヤー(VLCプレーヤーなど)を実行してから“rtsp://ID:パスワード@IPアドレス:RTSPポート番号/trackID=‘カメラチャンネル番号’”入力
- モバイルデバイス(BlackBerryなど)を通じた接続: インターネットエクスプローラーを実行してからhttp://IPアドレス:ウェブガードポート番号/”入力

参考: Black berryまたはAndroidデバイスを用いてDVRに接続する場合、ルーターを使っているかFirewallが設定されている場合はUDPポートを全てオープンしなければなりません。

参考: 一部のメディアプレーヤーではネットワークの状態によって綺麗な映像の再生ができない場合もあります。

参考: RTSPサービスはお使いになっているメディアプレーヤーの種類によってサポートされない場合もあります。

ウェブガード



図 36: ネットワーク－ウェブガード設定画面

ウェブガードを使用するためには“ウェブガード使用”を選択してください。ウェブガードの詳細内容は“付録－ウェブガード(WebGuard)”を参照してください。

ウェブガード接続に使用するポート番号は1024から65534までの番号の中で選択することができます。

参考: ポート番号の初期値は“12088”です。

VNC



図 37: ネットワーク－VNC設定画面

VNC(Virtual Network Computing、仮想ネットワークコンピューティング)サービスを使用するには“VNC 使用”を選択してください。

参考: VNCサービスとは、遠隔地からPCかモバイルデバイスを用いてネットワークを通じてDVRに接続してコントロールする機能です。

“ポート”を選択してVNCサーバーのポート番号を選択することができます。

“パスワード”を選択して遠隔でDVR接続に使用するパスワードを設定することができます。

参考: VNCサービスを通じた遠隔接続の最大人数は3人です。

参考: 遠隔でDVRコントロール時、キーボードを使用する場合、ショートカットキーの機能は以下のようです。

キー	機能
“←”と“h”	前面パネルの左側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで左側に移動します。
“→”と“l”	前面パネルの右側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで右側に移動します。
“↑”と“k”	前面パネルの上の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで上に移動します。
“↓”と“j”	前面パネルの下側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで下に移動します。
“m”と“  (Windowsキー)”	前面パネルのメニューボタンを押す時と同じく画面にライブ監視メニューと検索メニュー現します。
“Enter”と“Return”	前面パネルの  (再生/一時停止) ボタンを押す時と同じくメニューの設定時、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。
“d”と“PageUp/PageDown”	前面パネルの分割表示ボタンを押す時と同じく画面分割のフォーマットを転換します。
“c”と“Home”	ライブ監視モードで前面パネルの検索ボタンを3秒以上押す時と同じくバックアップを行います。
“F5”	VNC出力の画面を更新して再度表示します。

NetFS

FTPサイトを登録することで以下の機能を使用することができます。

- アップグレード、設定ファイル読込/保存、ログ保存、ファイル印刷のためのファイルをFTPサイトにアップロードしたり、FTPサイトからダウンロードできます。関連設定は以下のとおりです。
 - 監視モードの 設定メニュー>“システム”メニュー>“一般”タブ>“アップグレード”、“読込”、“保存”、“システムログ-保存”設定
 - 検索モードの バックアップ/印刷>“印刷”
- FTPサイトにクリップファイルのアップロード機能。関連設定は以下のとおりです。
 - 検索モードの バックアップ/印刷>“ツータッチクリップコピー”または“バックアップ”
- イベント感知FTP通知(システムイベントを除く)。関連設定は以下のとおりです。
 - 監視モードの 設定メニュー>“通知”メニュー>“FTP”タブ>“FTP”設定
 - 監視モードの 設定メニュー>“イベント”メニュー>“動作-通知”(FTP)設定

参考: 現在、FileZillaとsmallFtpサーバーに対応しています。

参考: 本機能はFPTサイトのPASV(パッシブ)モードにのみ対応します。

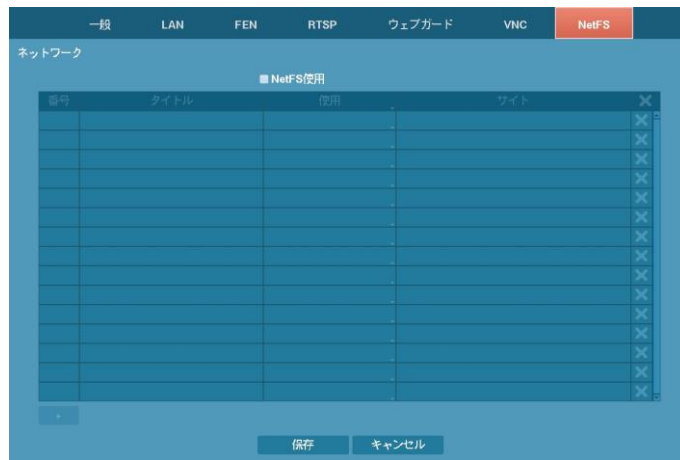


図 38: ネットワーク – NetFS設定画面

NetFSを使用するには、“NetFS使用”を選択してください。

登録したサイトの“タイトル”を選択してNetFSサイト名を変更できますのでサイト名を入力します。

“使用”を選択してNetFS機能の用途を選択できます。

- N/A : NetFS機能を使用しません。
- ALL : すべてのNetFS機能を使用します。
- アップグレード : NetFSサイトにアップロードされたアップグレードファイルが使用できます。
- 設定 : NetFSサイトにアップロードされた設定ファイルを読み込んだり保存できます。
- システムログ : NetFSサイトにシステムログを保存できます。
- バックアップ : NetFSサイトにビデオクリップを手動で保存したり、イベントが感知されたビデオクリップを自動で保存できます。
- 印刷 : イメージをPDFファイルでNetFSサイトに保存できます。

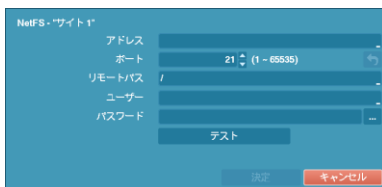
“サイト”を選択してNetFSサイトの情報を入力できます。

✕ ボタンを選択してNetFSサイトを削除することができます。

参考: “ネットワーク – NetFS”設定画面でFTPサイトを削除する場合、“通知 – FTP”設定画面でも該当FTPサイトが削除されます。

参考: FTPサイトの用途を“ALL”または“バックアップ”ではない別の設定に変更する場合、FTPの通知機能が無効化されます。

+ を選択してFTPサイトを登録します(最大16個)。



- アドレス: NetFSのアドレスを入力します。
- ポート: NetFSサイトにアクセスするためのポート番号を設定します。
- リモートパス: NetFSサイトでのフォルダーのパスを入力します。
- ユーザー/パスワード: NetFSサイトにアクセスするためのユーザーとパスワードを入力します。
- テスト: 設定したNetFSサイト情報が正しいかどうかテストします。

通知設定

コールバック



図 39: 通知－コールバック設定画面

“番号”を選択すると、コールバックを受け取るサーバーのIPアドレスを設定できます。DVRが遠隔アクセスに失敗した場合、再アクセスを試みる際に“リトライ”の回数は1回から10回まで選択できます。

メール



図 40: 通知－メール設定画面

メール機能とは、各種イベントの動作の通知の中に“メール”が含まれた場合、該当イベントが発生すると指定されたアドレスにメールを送る機能です。

“グループ & 受信人”左のボックスを選択/解除して、該当メールのアドレスを選択/解除することができます。画面の左下にある“+ グループ”を選択してメールの受信人グループを追加し、メールに添付するイメージのファイルの形式設定ができます。

“グループ”を選択すると、キーボード入力画面が表示されグループ名を指定できます。“添付ファイル”で、“CBF”を選択する場合、ビデオクリップ形式の、“JPG”を選択する場合JPEGファイル形式のイベント映像が、該当のグループでメール発送の時添付されます。また、“MP4”を選択する場合、MP4ファイル形式のイベント映像が、該当のグループでメール発送の時添付されます。

画面の左下にある“+ メール”を選択してメールのアカウントを追加することができます。

“使用”を選択し、追加するメールアドレスの使用可否を選択した後、宛先が属する受信人“グループ”を選択します。“ディスプレイネーム”を選択し宛先のディスプレイネームを指定した後“アドレス”項目に受ける側のメールアドレスおよびメールサーバーを設定します。★を選択すると、メールサーバーリストから、希望するメールサーバーが選択できます。

“添付ファイル”を選択し、メールに添付するイメージファイルの形式を変更できます。

参考: イベント映像の添付機能はテキストインのイベントに対しては除外されます。

設定されたメールのアカウントの右側の★のアイコンを押して設定されたアカウントを削除できます。

“SMTP設定”を選択するとSMTPサーバーが設定できます。

“SMTPサーバー”のIPアドレスかドメイン名、SMTPサーバーの“ポート番号”、“発信人”を設定してください。SMTPサーバーのポート番号初期値は“25”です。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバーを設定するとSMTPサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

“SSL/TLS使用”を選択するとSSL接続を要求するSMTPサーバーを使用することができます。

SMTPサーバーに使用者認証が必要な場合は“認証”を選択して“使用”を選択し、“ユーザー”と“パスワード”を設定します。

参考: この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます(<http://www.openssl.org/>)。

“発信人”を選択して選択して 発信人のメールアドレスを設定します。

“ディスプレイネーム”を選択し、発信人の表記ネームを指定した後、“アドレス”項目で、発送人のメールアドレス及び、メールサーバーを設定します。★を選択すると、登録されたメールサーバーリストから、希望するメールサーバーの選択ができます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値でメールが転送されテストすることができます。

FTP



図 41: 通知－FTP設定画面

FTP機能を設定すると、イベント発生時にFTPサイトにイベントが感知されたイメージまたはビデオクリップのアップロードができます。画面の左下にある“+”を選択してFTPサイトを追加できます。

“FTP”を選択してFTPサイトの情報を入力できます。仮想キーボードを利用して名前を入力します。

“アップロードファイル”を選択してFTPサイトにアップロードするファイルのフォーマットを選択できます。

+ を選択してFTPサイトを登録します(最大 5 個)。

- サイト：登録されたFTPサイトのリストが表示されます。リストからFTPサイトを選択します。NetFSサイトの“使用”設定が“ALL”または“バックアップ”ではない別の設定になっている場合、該当のFTPサイトを選択することはできません。“ネットワーク－NetFS”設定画面で“使用”設定を変更するか、別のFTPサイトを登録できます。
- アップロードファイル：CBF, JPGとMP4のうちから選択でき、CBFを選択する場合、イベントが感知されたビデオクリップをFTPサイトにアップロードします。JPGを選択する場合、イベントが感知されたイメージファイル(JPEGフォーマット)をFTPサイトにアップロードします。MP4を選択するとMP4形式のイベント映像をFTPサイトにアップロードします。
- サイト情報：FTPサイトの情報を表示します。

参考: FTP通知機能が正しく動作するためには、関連設定がなされていなければなりません。

- “ネットワーク”メニュー－“NetFS”タブ: “使用”設定
- “イベント”メニュー－“動作”－“通知”(FTP) 設定

参考: “ネットワーク－NetFS”設定画面からFTPサイトを削除する場合、“通知－FTP”設定画面でも該当のFTPサイトが削除されます。

参考: 短期間に多くのイベントが発生する場合、ビデオクリップがFTPサイトにアップロードされないことがあります。

参考: システムイベントには対応していません。

参考: アップロードが何度も失敗する場合、該当のビデオクリップを削除します。

参考: DVR起動時にアップロードされなかったビデオクリップがあってもすべて削除します。

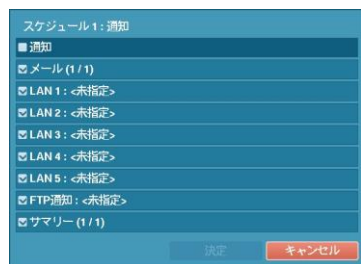
参考: JPGファイルのビデオクリップはストレージが十分でない場合もアップロードされます。

スケジュール



図 42: 通知-スケジュール設定画面

画面の左下にある“+”を選択して通知スケジュールを追加できます。“曜日”別を選択することができ、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更できます。“通知”を選択してイベント検知時、実行されるアラーム機能で“メール”、“LAN1~5”、“サマリー”などを選択することができます。



参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRをTB VIEWERに登録する必要があります。

参考: 通知“スケジュール”は、システム-システムイベント設定で、設定した、アラーム動作には影響がありません。

“サマリーEmail間隔”を設定すると設定した間隔でイベントの内容を要約したメールを遠隔地に伝送します。

ディスプレイ設定

OSD

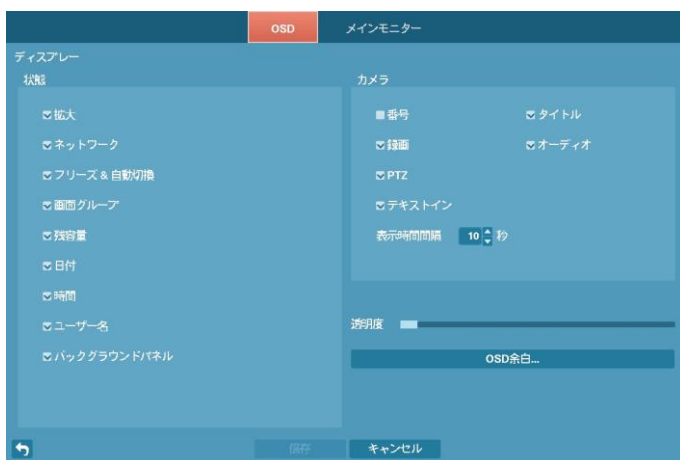


図 43: ディスプレー-OSD設定画面

“OSD”画面で次の情報を画面に表示するように設定できます。

–監視画面下段の各種状態を表示する項目

- 拡大：画面が拡大状態の場合は アイコンが表示されます。
- ネットワーク：ネットワークが接続されると アイコンが表示されます。ネットワークを通じて双方向オーディオを使用している時は アイコンが、VNCサービスが動作中である場合は アイコンが表示されます。
- フリーズ & 自動切換：一時停止状態の際に アイコンを、連続モードの際に アイコンが表示されます。
- 画面グループ：何番目の画面であるかが表示されます。
- 残容量：上書が選択された場合には アイコンが、上書きではない場合には残りの容量が%単位で表示されます。
- 日付、時間：日付と時間が表示されます。
- ユーザー名：画面右下にログインしたIDが表示されます。
- バックグラウンドパネル：OSD情報が表示される画面の下段のバックグラウンドパネルを黒く表示します。

–監視画面の各カメラ画面にカメラに関する情報を表示する項目

- 番号：カメラ番号がカメラ画面左上段に表示されます。
- タイトル：カメラ名がカメラ画面左上段に表示されます。
- 録画：録画とスケジュールに関連したアイコンが表示されます。
- オーディオ：該当チャンネルのオーディオが出力中の場合は アイコンが表示されます。
- PTZ：カメラがPTZカメラに設定されている場合、 アイコンが表示されます。
- テキストイン：テキストイン装置によって入力される文字列が表示されます。“表示時間間隔”を選択してテキストイン文字を画面に表示する期間を設定することが可能であります。



“透明度”を選択して変更すると、メニューの透明度がそれに合わせて変更されます。“OSD余白...”を選択して垂直、水平余白を設定できます。使用するモニターに合わせて適当なOSD位置を選択してください。

メインモニター



図 44: ディスプレー－メインモニター設定画面

プライマリモニターの“モード”を“フル切替”または“切替”に変更でき、“カメラ切替間隔”を設定できます。切換監視につきましては“第4章－運営－ライブ監視、切換監視”部分を参照してください。

“カメラ切替時間”を選択すると1秒～1分まで設定できます。切換監視につきましては“第4章－運営－ライブ監視、切換監視”部分を参照してください。

“イベントモニタリング”を選択するとイベントモニタリング機能を使用することができます。この機能につきましては“第4章－運営－ライブ監視、イベントモニタリング機能部分を参照してください。

メインモニターの画面の“解像度”を選択できます。

参考: HDMIモニターとVGAモニターをメインモニターとして同時に使用する場合には、同じ解像度をサポートするモニターの使用をお勧めします。サポートする解像度が違う場合、映像が設定された解像度の値で、見えないこともあります。

“解像度マニュアルモード”を選択して、モニターの解像度情報に関わらず、ユーザーが解像度を手動で設定することができます。

“画面に合わせる”を選択して、映像をプライマリモニター画面にピッタリ合うように調節できます。

“モニター解像度”は現在DVRに繋がっているモニターの解像度情報を見せます。

第4章 — 運営

DVRの動作はビデオを録画して再生することが主要機能です。しかし、ビデオを録画して再生することの他に、もっといろいろな機能を提供します。時間別、曜日別に録画スケジュールを設定することができ、多様な方法で録画されたデータを検索できます。また、遠隔制御、遠隔監視、録画された映像を再生しながら同時に現在の映像を録画するなど付加的な機能を提供します。

ボタンとリモコン、マウスの使用方法などについては、第3章—システム構成—メニューの使用方法に説明されています。

電源を入れる

“第2章—設置”の説明の通りDVRを設置すれば、記録する準備は完了です。装置に電源をつなぐとシステムが起動します。

ライブ監視

DVRが起動すると、直ちに接続されているモニターとスピーカーによって監視画面が表示され、オーディオが聞こえます。工場出荷時の基本モードは、全てのカメラを分割画面に表示するようになっています。カメラのボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面に表示します。

マウスの右クリックでメニューを呼び出すことができます。前面パネルの矢印ボタンを利用し、各メニュー及び項目に移動できます。



図 45: ライブ監視メニュー

参考: マウスの右クリックでライブ監視メニューを呼び出すことができます。

ライブ監視メニュー

ログアウト

ログインまたはログアウトを選択するとログインまたはログアウト窓を呼びます。

画面表示選択

- **全画面:** ライブ監視メニューで画面表示選択 → 全画面 を選択すると前面パネルの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、カメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。
- **PIP、2x2、1+5、1+7、3x3:** ライブ監視メニューで 画面表示選択 → PIP/2x2/1+5/1+7/3x3 を選択すると **分割表示** ボタンを押す時と同じく画面がPIP/2x2/1+5/1+7/3x3に切り替わります。
- **カメラのOSD、状態のOSD:** ライブ監視メニューで 画面表示選択 → “カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD(画面上に文字表示)機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を有効化、または無効化させます。

前グループ、次グループ

全画面で前グループ、次グループを選択すると、現在の画面の前/次のカメラ画面に移動します。

フリーズ

フリーズを選択すると、ライブ監視モードで  (再生/一時停止) ボタンを押す時と同様に画面が停止されます。システム構成-ディスプレイ設定で“フリーズ”を選択し有効化していると、画面左下に  が表示されます。画面停止状態から、また フリーズを選択するか  ボタンを押せば画面停止状態が解除されます。但し、**メニュー**、**緊急録画** ボタンは押してもフリーズ状態はそのままです。

アラームリセット

アラームが作動している間 アラームリセットを選択すると、内部ブザーを含むアラーム出力をリセットします。

緊急録画

マウスで 緊急録画 を選択すると、**緊急録画** ボタンを押す時と同じように緊急録画機能を使用/解除します。

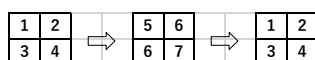
自動切替

自動切替を選択するとライブ監視モードでリモコン画面自動切替ボタンを押す時と同じく自動切替が開始します。自動切替を停止させたい場合は、もう一回自動切替を選択するかリモコン画面自動切替ボタンを押してください。システム構成－ディスプレイ設定で“自動切替”を選択し有効化していると、画面左下に「」が表示されます。自動切替にはフル切替と切替があります。

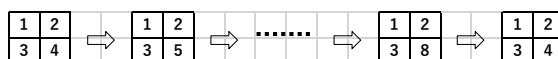
“フル切替”モードを選択すると、監視モードの全画面及び分割画面で全てのチャンネルが順番に切り替わって表示されます。フル切替機能を使用するためには、システム構成－ディスプレイ設定の自動切替設定で“フル切替”を選択してください。

“切替”モードでは、監視モードの分割画面で、右下の一画面だけ別の画面に変わり続けるようになります。切替機能を使用するためには、システム構成－ディスプレイ設定の自動切替設定で“切替”を選択してください。

例えば、4分割画面で自動切替を選択すると、以下のように切替監視が進みます。



<フル切替モード例>



<切替モード例>

参考: “フル切替”で動作中の場合は、画面左下の自動切替表示の横にページ番号が表示されます。

参考: ページを構成している全てのカメラが無効状態か、映像信号なしか、隠しカメラなら(そしてそのカメラを見る権限のないIDでログインしたならば)、該当ページを飛ばすようになります。

カメラメニュー

- **PTZ:** カメラメニュー→“PTZ”を選択するとPTZボタンを押す時と同様にPTZコントロール機能を実行することができます。詳しい内容は下記の“PTZ制御”部分を参照してください。
- **拡大:** カメラメニュー→“拡大”を選択するとリモコン拡大ボタンを押す時と同様に映像を拡大することができます。詳しい内容は下記の“拡大機能”部分を参照してください。
- **オーディオ:** ライブ監視メニューでカメラメニュー→“オーディオ”を選択するとオーディオ出力をOn/Offできます。
- **色調整:** カメラメニュー→“色調整”を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると色調整画面が表示されます。各カメラの輝度、コントラスト、彩度、色相を調整することができます。

参考: ここで変更した色調整のと通りの映像がライブ監視及び録画されます。

- **メニューコントロール:** ライブ監視メニューで  (カメラメニュー)→“メニューコントロール”を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると該当カメラが対応するメニュー調整画面が表示されます。本機能は該当カメラがPelco-C/C-protocol (H)プロトコルを使用して、UTC (Up the Coax)機能に対応する場合のみ対応します。
- **グループ編集:** カメラメニュー→“グループ編集”を選択すると、分割画面で前面パネルメニューボタンを3秒以上押す時と同様に画面のグループ編集モードがスタートします。詳しい内容は下記の“画面グループ編集機能”部分を参照してください。

検索

- **全てのカメラ:** 検索→“全てのカメラ”を選択すると検索ボタンを押す時と同様に検索モードに入ります。
- **トリプレックス:** 検索→“トリプレックス”を選択すると、分割画面モードで検索ボタンを押してカメラを選択する時と同様にトリプレックス再生モードに変わり、当該チャンネルの映像を再生します。

設定

設定を選択すると設定メニューに入ります。

状態

状態を選択するとシステムイベント状態及びHDD状態が確認できます。詳しい内容は下記の“状態監視”部分を参照してください。

参考: “状態”メニューの選択は“システム検査”の権限を持ったユーザーでログインした時だけ、可能になります。

画面グループ編集機能

画面グループ編集モードは、監視画面(PIP、4、6、8、9画面)で、自分の望む配置でカメラ映像を設定する機能です。

PIP、4、6、8、9画面のライブ監視画面でカメラメニュー→“グループ編集”を選択するか前面パネルの  ボタンを3秒以上押すと、画面グループ編集モードが開始します。画面上に黄色い枠線が現れます。枠線は矢印ボタンやマウスを利用して、カメラ画面を選択でき、別のカメラボタンを押すと、選択された位置にボタンを押したカメラ画面が表示されます。もし、ボタンを押したカメラがその画面で表示していない画面ならば、選択された位置は、ボタンを押したカメラ映像が表示されます。その場合、画面が交換することはありません。そして、ボタンを押したカメラがその画面に表示されている画面ならば、選択されたカメラと位置が入れ替わります。このような方法によって各画面に望みのカメラ番号を配置することができます。画面グループ編集モードでもう一度  (再生/一時停止) ボタンを押すと、画面グループ編集モードが終了します。画面グループ編集モードは、操作のない場合約15秒で終了します。

拡大機能

拡大機能は、システム構成-ディスプレイ設定で“拡大”を選択して有効化させると、拡大モードで  アイコンが表示されます。

リモコン  ボタンを押して拡大して見るカメラを選んでください。単画面だけ見える全画面モードでは、現在の画面が自動的に選択されます。カメラを選択すると全画面に変わり、右上に拡大する位置を設定する画面が表示されます。矢印ボタンを利用し、拡大して見る位置を変更することができます。  (再生/一時停止) ボタンを押すと、映像が2倍、4倍に拡大されます。拡大画面を抜け出すには、もう一度  ボタンを押してください。

参考: 拡大機能の応比率はカメラモードによります。

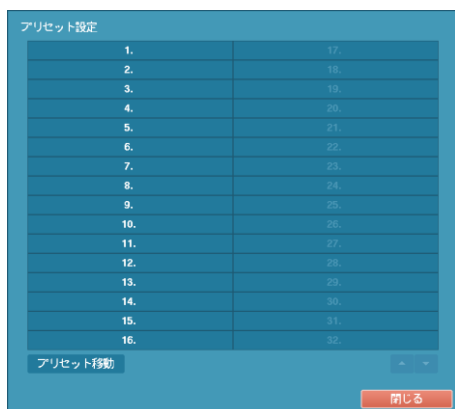
PTZ制御

PTZ ドームカメラをDVRで使用するためには、背面のRS485かRS232端子のうちカメラがサポートするものをカメラに正しく接続してください。そして、その端子をカメラ設定で説明したように正しく設定してください。

PTZ: カメラ選択	
1. CAM1	監視モードで現在の監視画面上にPTZカメラがある場合、  ボタンを押すと、PTZカメラを選択する画面が表示されます。
2. CAM2	
3. CAM3	望みのPTZカメラを選択してください。その場合、該当カメラのOSD画面に  アイコンが点滅します。現在の監視画面上にPTZカメラがない場合には、それを知らせるメッセージ画面が表示されます。PTZモードで再び  ボタンを押すとPTZモードから抜け出すことができます。
4. CAM4	
5. CAM5	
6. CAM6	
7. CAM7	
8. CAM8	PTZモードでは、矢印ボタンによってPTZカメラの上/下/左/右移動(Pan, Tilt)機能を調整でき、カメラ1番()や2番()ボタンによって拡大と縮小機能を、3番()や4番()ボタンによっては近距離と遠距離焦点機能を調整することができます。

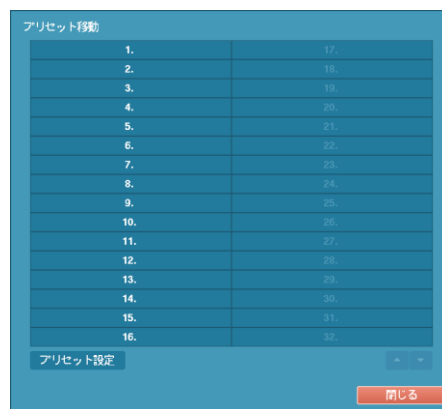
図 46: PTZカメラ選択メニュー

参考: PTZカメラを操作するためには、“PTZ制御”の権限を持ったユーザーでログインしてください。



<プリセット設定>

PTZモードで、をクリックして“プリセット設定”設定画面が表示され、現在位置を望みのプリセット番号に保存することができます。



<プリセット移動>

PTZモードで **SEARCH** ボタンを押して“プリセット移動”設定画面が表示されたらプリセット番号を選択し、その番号に保存された位置にPTZカメラをすぐ移動させることができます。

図 47: PTZ設定画面

PTZモードで **メニュー** ボタンを押してから画面上段メニューで **(PTZ高機能)** を選択すると下記のPTZ高機能メニューが表示されます。マウスの右クリックでもPTZ高機能メニューを呼び出すことができます。



速度、自動巡回などのPTZカメラがサポートする機能を使用できます。

参考: マウスを用いて上/下/左/右の移動速度を制御することができます。PTZモードでマウスの左ボタンを押したままでご希望の方向に移動してから回転速度を選択します。

参考: PTZカメラがサポートしない機能は選択できません。

PTZモードでマウスを用いて簡単にPTZカメラを操作することができます。該当カメラのスクリーンでマウスの左ボタンを押したままでカメラを任意の方向に移動させ、マウスのホイールを動かして映像の大きさを調整することができます。PTZモードでマウスのカーソルを画面の下に位置させれば下図のようなPTZ制御ボックスが表示されます。



PTZ制御ボックスの **x** をクリックするとPTZ制御ボックスが消えます。アイコンの下をクリックしてからドラッグ&ドロップしてボックスの位置を変更できます。矢印アイコンをクリックしてPTZカメラを上/下/左/右などの8個方向に移動させることができます。各アイコンの機能は下記の通りです。



拡大/縮小



しぼり開/閉



PTZ高機能



近距離/遠距離焦点調整



プリセット設定/移動

イベントモニタリング機能

システム構成－ディスプレイ設定で“イベントモニタリング”が選択されていたら、イベントが発生した場合はイベントが連動録画されるカメラの画面だけ表示する状態に自動的に切り替わります。

イベントモニタリングはイベント録画時間の分割表示にされ、続いて新しいイベントが発生しなければ、イベントモニタリング画面に切り替わる前の画面に戻ります。

イベントモニタリングの状態イベント録画時間が経過する前でも分割表示ボタンを押したりカメラ番号ボタンを押すと、その監視画面に切り替わります。

隠しカメラ機能

カメラ設定で特定カメラを“隠し1”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、監視画面で該当カメラの映像は表示されなくなります。しかし、該当カメラのタイトルと現在の状態を示すアイコンは正常に表示されます。

カメラ設定で特定カメラを“隠し2”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、該当カメラがoff設定のように表示されます。すなわち、カメラ映像はもちろん表示されず、カメラタイトルはグレーになり、各種の状態アイコンも表示されなくなります。

“隠しカメラビュー”権限を持ったユーザーがログインした場合には、カメラが“隠し1”か“隠し2”に設定されていても隠し機能が適用されず、映像だけでなく状態アイコンも表示されます。

状態監視

ライブ監視画面または検索画面で状態を選択するとシステムイベント及びHDDの状態が確認できます。



図 48: イベント状態－イベント状態画面

現在のいろいろなイベントの状態を調べることができます。イベントが発生したところは目立つように表示されます。イベントが発生してから5秒間点滅するので瞬間のイベントも簡単に把握できます。

アラーム入力の設定で、設定したとおりにアラーム入力イベントが発生した場合、該当「アラーム入力」チャンネルが黄色で強調されます。そして「モーション」、トリップゾーン、映像信号なし、映像遮断、テキストイン項目は、それぞれイベントモーション設定、トリップゾーン設定、映像信号なし設定、映像遮断設定、テキストイン設定で設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。また、「アラーム入力エラー」、「録画を確認」項目は、システムモニタリング設定によってイベント状態が表示されます。「緊急録画」項目は緊急録画を行っているときイベント状態が表示されます。「ディスクフル警告」項目と「ディスクフル」項目は「上書」モードに設定されていない場合、システムモニタリング設定で指定したディスクの割合になった場合、あるいは100%フルになった場合に発生するイベントです。「ファンエラー」は電源コード端子側のクーリングファンが約4秒以上動作しない場合、発生するイベントです。「保存デバイスなし」はDVRの最初起動時、録画用の保存装置に接続されていない場合発生するイベントです。「ディスク構成変更」はハードディスクの入れ替わりの後、システムを再起動する場合発生するイベントです。

“イベント状態”設定画面で“HDD”タブを選択して現在のHDDの状態を調べることができます。

タイプ	ディスクエラー	温度	S.M.A.R.T.
内蔵 1	良好 (0%)	良好 (38°C)	良好

図 49: イベント状態–HDD画面

“ディスクエラー”項目には使用されたことのないディスクの場合は“初期化されていません”と、正常に使用されているディスクの場合は“良好”と表示されます。“良好”と表示されてもHDDの一部が使用できない場合、その比率が“%”と一緒に表示されます。この比率がユーザーの指定した比率より高い場合は“エラー”として表示され、システムイベントが発生します。

“温度”項目には、温度を読み取れないディスクの場合“N/A”と、温度を読み取って正常な場合は“良好”と表示され、温度と一緒に表示されます。この温度がユーザーの定めた温度以上の場合は“不良”と表示され、システムイベントが発生します。

“S.M.A.R.T.”項目には、S.M.A.R.T.機能をサポートしないディスクの場合は“N/A”と、S.M.A.R.T.状態に異常があって24時間以内にディスクが使用できなくなる可能性のある場合は“不良”と、正常な場合は“良好”と表示されます。“不良”の場合はシステムイベントが発生します。

映像録画

“第2章－設置”部分で説明した通り、DVRを設置すると録画ができます。

いつ録画するかについての設定は、“第3章－システム構成－録画スケジュール設定”部分で説明されています。また、プリイベント機能を利用する場合は、“第3章－システム構成－プリイベント設定”部分を参照してください。録画モードの設定については、“第3章－システム構成－録画設定”部分に詳しく説明されています。ここでは幾つかの設定について簡略に説明します。

ハードディスクが一杯になった場合、中止するか上書きすることができます。初期設定は“上書”に設定されており、最も古い録画から上書きします。“上書”を解除するとディスクが一杯になった場合録画が中止されます。

緊急録画機能

ライブ監視メニューで緊急録画を選択したりライブ監視モードで**緊急録画**ボタンを押すと、有効化した全てのカメラで緊急録画が行われます。その場合、画面の各カメラ画面には感嘆符の形の**!**アイコンが表示されます。この緊急録画は、ユーザーが設定した録画スケジュールに関係なく実行されます。

緊急録画状態では、システム構成－録画設定で緊急録画のために設定された**ips**と画質で録画がおこなわれます。

緊急録画状態でもう一度緊急録画を選択したり**緊急録画**ボタンを押すと、緊急録画モードは解除されます。システム構成－録画設定で“緊急録画期間”が設定されている場合、設定された時間の通り緊急録画後自動に緊急録画モードが解除されます。

参考: HDDが“上書”に設定されていない状態ながら、100%フルになってしまった場合は緊急録画が行われません。

オーディオ録音

システム構成－録画設定でDVRのオーディオ録音が設定されていれば、その設定の通りビデオが録画される時にオーディオも録音されます。

注意: オーディオを録音する場合には、全ての関連法規と条例を確認してください。

保存映像の再生

保存映像を再生するためには、“検索”の権限を持ったユーザーでログインしてください。本DVRは全チャンネル再生とトリプレックス再生をサポートします。分割画面モードで、**検索**ボタンを押すとトリプレックス再生モードを選択できます。

トリプレックス機能を利用し、ライブ監視モードから録画しながら特定のチャンネルの映像を再生することができます。分割画面モードで**検索**ボタンを押してトリプレックス再生モードになると次のような再生カメラ選択メニューが表われます。

全てのカメラ	“全てのカメラ”を選択すると全チャンネルを再生します。全てのカメラ再生モードでも画面グループ編集設定が保たれ、監視画面と同じく設定することもできます。ただし、PIPモードはサポートしておりません。
1. CAM1	
2. CAM2	
3. CAM3	
4. CAM4	“トリプレックス”カメラ目録から検索しようとする特定カメラチャンネルを選択するとトリプレックス再生モードに変わり、選択したチャンネルの映像を再生します。ただし、全画面モードではすぐ再生モードに変わります。トリプレックスモードの画面構成は監視モードの画面構成をそのまま使用し、再生チャンネルとして選択されたカメラのタイトル及び、画面の枠が赤色となります。

図 50: 再生カメラ選択メニュー

検索モードの初期位置は以前に再生した位置か、録画の最後の位置です。録音されたオーディオの再生は該当カメラが全画面ではなければなりません。

参考: “隠し”として設定されたカメラの場合、隠し機能が再生モードでも同様に適用されます。

カメラボタンを押すと該当カメラの映像を全画面で見ることができます。

◀◀ ボタンはビデオを高速で逆再生します。ボタンを押すたびに ◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀ (X16, X32, X64, X128, X256) に速度が切り替わります。▶▶ ボタンを押すと、ビデオを高速で再生します。ボタンをもう一度押すと、▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶ (X16, X32, X64, X128, X256) に速度が切り替わります。一時停止状態から ▶ 矢印ボタンを押すと現在の画面の次の画面を、◀ 矢印ボタンを押すと現在の画面の前の画面を見ることができます。

⏸ (再生/一時停止) ボタンを押すたびにビデオを一般速度で再生するか一時停止させます。

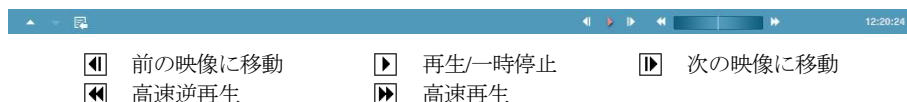
🔍 ボタンを押すと、検索モードに入り、再びボタンを押すと検索モードから抜け出ます。検索モードに入るとビデオは一時停止され、▶/⏸ ボタンを押すと普通のスピードで再生します。一時停止モードでは画面上 || が、再生中には画面に ▶ が表示されます。

🔍 ボタンを押して再生画面を拡大して再生ができます。

参考: 拡大機能の対応比率はカメラモードによります。

🔍 ボタンを押すと4→6→8→9画面に変わります。

再生モードでマウスを使用するとより便利に操作できます。マウスのポインターを再生画面に置くと、次のような録画テーブル検索画面(単純表示)が表示されます。



映像検索

マウスの右クリックでメニューを呼び出すことができます。前面パネルの矢印ボタンを利用して各メニューと項目に移動することができます。



図 51: 検索メニュー

検索メニュー

検索

- ・ **イベントログ検索:** 検索メニューで 検索 → “イベントログ検索”を選択すると、イベントログを利用して録画映像を検索することができます。詳しい内容は以下の“イベントログ検索”部分を参照してください。
- ・ **録画テーブル検索:** 検索メニューで 検索 → “録画テーブル検索”を選択すると、録画テーブルを利用して録画映像を検索することができます。詳しい内容は以下の“録画テーブル検索”部分を参照してください。
- ・ **モーション検索:** 検索メニューで 検索 → “モーション検索”を選択すると、モーション検索の結果を基準として録画映像を検索することができます。詳しい内容は以下の“モーション検索”部分を参照してください。
- ・ **テキストイン検索:** 検索メニューで 検索 → “テキストイン検索”を選択すると、テキストイン検索の結果を基準として録画映像を検索することができます。詳しい内容は以下の“テキストイン検索”部分を参照してください。
- ・ **サムネイル検索:** 検索メニューで 検索 → “サムネイル検索”を選択すると、サムネイル検索の結果を基準として録画映像を検索することができます。詳しい内容は以下の“サムネイル検索”部分を参照してください。

移動

- ・ **最初へ:** 検索メニューで 移動 → “最初へ”を選択すると、録画された映像の最初の画面に移動します。
- ・ **最後へ:** 検索メニューで 移動 → “最後へ”を選択すると、録画された映像の最後の画面に移動します。
- ・ **日時指定検索:** 検索メニューで 移動 → “日時指定検索”を選択すると、日付と時間で録画映像を検索することができます。



移動する日付/時間を設定した後、“決定”を選択すると該当録画映像に移動します。

ブックマーク

検索メニューでブックマークを選択して現在再生時点をブックマークに追加します。詳しい内容は下記の“ブックマーク”部分を参照してください。

画面表示選択

- **全画面:** 検索メニューで 画面表示選択 → 全画面 を選択すると前面パネルの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、カメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。
- **カメラのOSD、状態のOSD:** 検索メニューで 画面表示選択 → “カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD(画面上に文字表示)機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を有効化、または無効化させます。

前グループ、次グループ

検索メニューで前グループ、次グループを選択すると、現在の単画面の前/次の画面に移動します。

アラームリセット

検索メニューでアラームが作動している間 アラームリセットを選択すると、内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

緊急録画

検索メニューで緊急録画を選択すると、**緊急録画**ボタンを押す時と同じように緊急録画機能を使用/解除します。

画面拡大/オーディオ

- **拡大:** 検索メニューで 画面拡大/オーディオ → “拡大”を選択すると**拡大**ボタンを押す時と同様に映像を拡大できます。“拡大”をもう一度選択すると拡大モードが解除されます。
- **オーディオ:** 検索メニューで 画面拡大/オーディオ → “オーディオ”を選択するとオーディオ出力をOn/Offにすることができます。録音されたオーディオは、該当カメラを全体画面で再生する時だけ再生できます。
- **テキスト入力表示/隠す:** 検索メニューで 画面拡大/オーディオ → “テキストイン表示/隠す”を選択すると、録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像と一緒に表示するかどうか選択できます。
- **グループ編集:** 検索メニューで 画面拡大/オーディオ → “グループ編集”を選択すると、分割画面で**メニュー**
□ボタンを3秒以上押す時と同様に画面のグループ編集モードがスタートします。詳しい内容は“ライブ監視－画面グループ編集機能”部分を参照してください。

イベントログ検索画面で特定イベントを選択すると、連動録画が行われたチャンネルの選択日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。

参考: 現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。その場合、**分割表示**ボタンを押して9分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

登録されたユーザーでログインしていれば、イベントログ検索画面を表示するために特に必要なユーザー権限はありません。もちろん、検索するためには“検索”権限を持ったユーザーでログインしてください。

イベントログ検索画面で左下の“条件...”を選択すると、“イベントログ検索条件”の設定画面が表示されます。

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。■を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“開始”または“終了”時間をユーザーが指定する場合には、“時間重複検査”を選択/解除できます。“時間重複検査”が選択されていないければ、システムの使用途中でシステム時間の変更され、ユーザーが指定した“開始”時間が二ヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択する画面が表示され、同じくユーザーが指定した“終了”時間が二ヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択する画面が表示されます。そして、ユーザーが選択した“開始”と“終了”時間帯に発生したイベントだけが検索され表示されます。そうでなく“時間重複検査”が選択されれば、全ての“開始”、“終了”時間帯に発生したイベントを検索します。

“アラーム入力”でアラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。

“モーション”でモーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。

“映像信号なし”で映像信号なしのイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“映像遮断”で映像遮断のイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“テキストイン”でテキストインのイベントを検索するチャンネルを選択します。

“録画チャンネル”でイベントを検索する録画チャンネルを選択します。ここで設定された録画チャンネルのうち、一つでも連動録画が発生したイベントのみ検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが一つもないイベントのみ検索します。

“緊急録画”、“録画を確認”、“アラームインを確認”、“ディスクフル警告”、“ディスクエラー”、“ディスク温度”、“ディスクS.M.A.R.T.”、“ディスク構成変更”、“ファンエラー”などのシステムイベントを検索する際に含めるかどうかを設定できます。

録画テーブル検索

検索メニューより“録画テーブル検索”を選択すると下図のような録画テーブル検索画面を表示します。



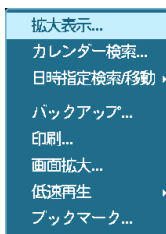
図 53: 録画テーブル検索画面

録画テーブル検索画面は現在画面に表示するチャンネルの録画情報を表示します。検索画面の上段へ日付及び時間情報が表示され、録画テーブルの白色の縦線は現在再生位置を表示します。前面パネルの矢印ボタンを利用して現在再生位置を区間単位で移動することが可能であり、マウスを利用するとより簡単に再生位置を変更することができます。

ユーザーがシステム時間を過去に戻して録画を行い、同時間帯に1つ以上の映像がある場合、重複した時間帯は黄色の分離線で分けられて録画テーブルに表示されます。

参考: 録画テーブルの後段へ表示するほどより最新データであります。

併合表示検索画面の左下のを選択すると現在の画面へ表示するチャンネルの録画情報が表示されるチャンネル別表示モードに変わり、を選択するとと検索及び再生道具のみ表示される単純表示モードに変わります。単純表示検索画面でを押したりチャンネル別表示画面でを押すと併合表示モードに変わります。



検索画面左下のを選択すると詳細検索メニューが表示され、必要な機能を実行することができます。

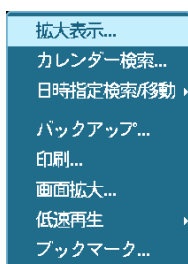
拡大表示を選択すると8時間(1920x1080 解像度からは12時間)の録画情報が表示されて1分単位区間で構成されます。もう一回拡大表示を選択すると24時間の録画情報が表示されて3分単位区間で構成されます。画面へ表示する日付及び時間より以前あるいは以後の録画データが存在する場合、日付及び時間情報表示欄の両方へスクロールが表示されます。スクロールを前面パネルの矢印ボタンあるいはマウスでクリックしてからドラッグして当該録画データの情報を確認することができます。

参考: 区間別録画映像が複数のモードで録画されていたら“緊急(赤色)→プライベート(黄色)→イベント(紫色)→タイムラプス(青色)”録画の順に表示します。

検索メニューでカレンダー検索を選択するとカレンダー検索画面が表示されます。



録画された映像がある日付が白色に表示され、その日付だけ選択できます。日付を選択すると選択された日付の最初に当たる時間に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。イベントログ検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、9分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。



- 日時指定検索/移動: 録画された映像の最初の画面または最後の画面に移動したり、日時で録画映像を検索できます。
- バックアップ: バックアップが行えます。
- 印刷: 現在の画面を印刷することができます。
- 画面拡大: 再生画面を拡大することができます。
- 低速再生: 再生画面を遅くできます。(x1/2、x1/3、x1/4、x1/6、x1/8)
- ブックマーク: 選択するとブックマーク画面が表示されます。詳しい内容は下記の“ブックマーク”部分を参照してください。

検索画面の下段にある各再生ボタンの機能は次のとおりです。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 前の映像に移動 | 再生/一時停止 | 次の映像に移動 |
| 高速逆再生 | 高速再生 | |

検索メニューの左上の を選択して録画テーブル検索メニューを閉じます。

モーション検索

単画面での再生時のみ、検索メニュー上に“モーション検索”メニューが有効化されて選択することができます。検索メニューで“モーション検索”メニューを選択すると、“モーション検索”設定画面が表示されます。



図 54: モーション検索画面

“条件...”を選択すると、モーション検索で検索する条件を設定することができます。



“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接設定できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“タイプ”で“モーション検索”や“オブジェクト検索”のどちらかに設定できます。“モーション検索”はすぐ前の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。すなわち、持続的な変化にもかかわらず変化がとても遅い場合は感知しません。反対に“オブジェクト検索”は、“開始”に設定された日時の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。従って、とても遅い変化であっても“開始”に設定された時と比較してある程度以上変化したら、その変化は感知されます。

“エリア”設定は、システム構成－モーション設定でエリアを設定する方法と同じです。

参考:“オブジェクト検索”のエリア”を設定する場合、対象物のへり部分をエリアに含めるとうまく検索されない場合があります。正確な検索のためにできるだけ対象物のへりの内側を検知エリアに設定してください。

“感度”を1(低感度)~5(高感度)の間で設定でき、“ミニマムブロック”も設定できます。

条件設定を終えてから“検索”を選択すると検索を開始します。検索中に“中止”を選択すると検索が中止されます。

モーション検索設定の右側のリストに表示される検索結果のうちの一つを選択すると、左側に該当時間に録画された映像が表示されます。該当映像を再生する場合、“閉じる”ボタンを選択してください。

別のカメラの全画面モードに切り換えて“モーション検索”を選択すると、以前のモーション検索結果が消えるというアラームメッセージが表示されます。その場合、“結果削除”を選択すると以前の検索結果が消え、“キャンセル”を選択すると以前の検索結果が検索結果リストに表示されます。

テキストイン検索

検索メニューで“テキストイン検索”を選択すると、下のようなテキストイン検索画面が表示されます。

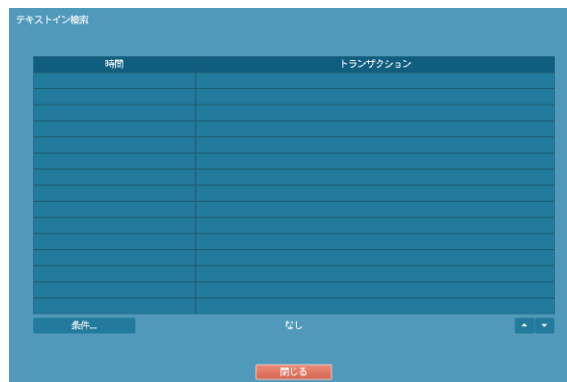


図 55: テキストイン検索画面

トランザクションリストで特定トランザクションを選択すると、選択された日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。イベントログ検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、9分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

参考: 1倍速再生時には、画面上にテキストイン情報が重ねて表示されます。別の速度では表示されません。

左下の“条件...”を選択すると、テキストイン検索で検索する条件を設定することができます。

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。▶を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

検索するテキストイン“チャンネル”を選択することができます。

テキストイン装置を選択して汎用テキストのようなテキストイン装置のタイプを選択することができます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関する検索設定内容です。

“+”を選択して検索変数設定を追加することができます。右側の✕を選択して当該項目及び全体項目を削除することができます。検索変数設定の詳細内容は“付録-テキストイン情報のクエリー例”をご参照ください。

“条件”を選択して大小文字を区分可否、正確に一致する単語のみ検索するかどうか、重複されたトランザクションを除去可否などの検索条件が設定できます。

“取込”を選択して保存された検索条件設定値を読み込むことができます。

“保存”を選択して現在検索条件設定値を保存することができます。仮想キーボードを利用して検索条件名を入力します。

設定が終わってから“検索”を選択すると、検索後に“テキストイン検索”の設定画面に戻ります。

サムネイル検索

検索メニューで“サムネイル検索”を選択すると、下のようなサムネイル検索画面が表示されます。



図 56: サムネイル検索画面

マウスの右クリックでメニューを呼び出すことができます。

メニューの“移動”を選択すると、特定の日付の映像を検索することができます。“時間単位”を選択するとサムネイルの時間単位の変更、時間単位での前後移動をすることができます。

画面下の / ボタンを押すと、映像の精密度を日付/時間/分単位で変更することができます。

画面下の 日 を押すと、日付/時間/分単位で映像を前後に移動することができます。

選択した日付や時間に該当する映像がない場合、画面に“NO IMAGE”と表示されます。画面をダブルクリックすると、その日付の単位が変更されます。

ブックマーク

検索メニューで“ブックマーク”を選択すると、“ブックマーク”設定窓が表示されます。

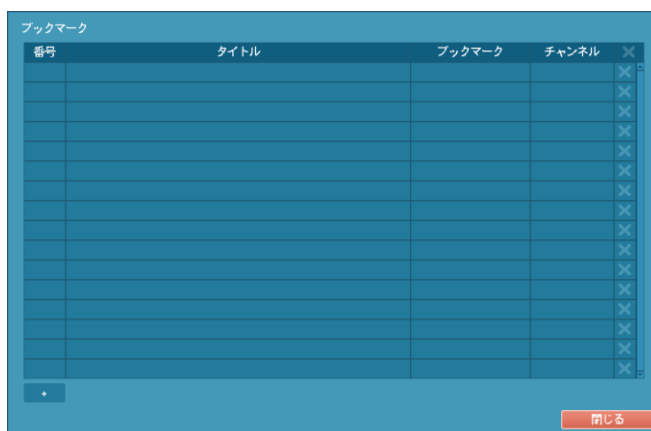


図 57: ブックマーク設定画面

“+”を選択して現在再生時点をブックマークに追加します。ブックマーク設定メニューから特定のブックマークを選択すると登録された再生時点に移動することができます。

参考: 保存可能ブックマークの数は64個までです。

設定されたブックマーク項目の右側の の表示を選択してそのブックマークを削除することができます。

バックアップ

任意の二つの時点を設定してその間の録画データをバックアップすることができます。検索メニューで“バックアップ/印刷-ツータッチクリップコピー”を選択するか、再生モードでリモコンのバックアップボタンを1回押すと1番目の時点が設定されカメラ左下位置に「アイコンが表示されます。もう一度“バックアップ/印刷-ツータッチクリップコピー”を選択するかバックアップボタンを押すと2番目の時点が設定されバックアップ設定窓が表示されます。指定した二つの時点の範囲が“開始”と“終了”時刻に自動的に設定されます。

ライブ監視または再生モードでリモコンのバックアップボタンを3秒以上押すとワンタッチモードでバックアップ設定窓を表示することができます。ワンタッチモードではいつも最新録画データを終了時刻に設定し保存ドライブの空容量によって開始時刻が自動的に計算されます。

検索メニューで“バックアップ/印刷-バックアップ”を選択したりライブ監視モードでリモコンのバックアップボタンを押すと、“バックアップ”設定窓が表示され“開始”と“終了”時刻を設定することができます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。



図 58: バックアップ設定画面

“チャンネル”でどのカメラの映像を保存するかを選択してください。“パスワード”を登録すると、このファイルを再生する時、パスワードの入力が必要になります。パスワード使用するかどうかを選択しパスワードを設定してください。“メディア選択”で保存するメディアまたはFTPサイトを選択してください。NetFS機能が使用中で(“ネットワーク”メニュー-“NetFS”タブ)、“使用”設定が“ALL”または“バックアップ”となっていれば、FTPサイトにビデオクリップをコピーできます。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。“ファイル名”を選択して保存するファイル名を設定してください。最高63字まで入力できます。

参考: ファイル名を設定する場合、\、/、:、*、?、“、<、>、|などの特殊文字は使用できません。

参考: NetFSサイトにビデオクリップをコピーする場合、NetFSサイトのディスク容量は確認できません。DVRは実際のディスク容量と関係なく30GBと表示し、バックアップのためのファイルサイズは30GB以下に制限されます。ビデオクリップがコピーされてからアップロードが失敗した場合、コピーされたビデオクリップが削除されます。同一のファイルが存在する場合、ビデオクリップはコピーされません。

“テキストインデータ含む”を選択すると当該録画映像のテキストイン情報がある場合、テキストイン情報を映像と共に保存します。

“DVR名使用”を選択すると、バックアップファイル名にサイト名を追加します。

参考: バックアップファイル名にサイト名を追加する場合、サイト名に使用された\、/、:、*、?、“、<、>、|などの特殊文字は“_”に代わります。

“開始”を選択すると指定した保存範囲のバックアップするデータ容量を計算して表示します。ただし、ワンタッチバックアップモードでは保存媒体の容量に合わせて保存範囲が自動に設定されます。また選択した保存媒体に空き容量が足りない場合には空き容量に合わせてバックアップすることができます。時間範囲と容量を確認してから“継続”を選択するとバックアップが始まります。バックアップが開始されると、“キャンセル”を押してバックアップをキャンセルでき、“閉じる”を押して画面を隠すことができます。“閉じる”を選択してもバックアップは続けられ、作業が完了するとそれを確認する画面が表示されます。

参考: 2GBを超える場合には保存範囲を調節してファイルサイズを減らしてください。2GBを超える映像区間をバックアップする場合、システムが2GB単位に分けて保存します。

バックアップで作ったファイルをWindows上で実行して、保存された動画を再生することができます。再生方法に関する詳しい内容は、TB VIEWERの取扱説明書をご覧ください。

参考: USB保存メディアの場合、外部でFAT32に初期化されたものを使用してください。USBハードディスクをFAT32に初期化して使用方法は、“付録-USBハードディスクのインストール”部分に説明されています。

注意: USBバックアップの途中でUSBケーブルを抜いたり、USB装置の電源を切らないでください。もし、バックアップの途中でケーブルが抜けたり装置の電源が切れた場合、DVRシステムが誤動作や外付USB装置のファイルシステムが損傷して、再度アーカイブを試みる場合にアーカイブができないというエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージを取り除くには、DVRを終了させて再起動させなければなりません。もし、USBハードディスクのファイルシステムが損傷したならば、DVRを再起動してもアーカイブを試みる際にエラーメッセージが出続けるようになります。そのような場合はUSB-HDDをもう一度初期化するか、市販の復旧プログラムを利用して外付ドライブのファイルシステムの損傷した部分を復旧してください。

印刷

現在の映像を印刷するために、再生モードでⒺ(再生/一時停止)ボタンを押して再生を一時停止します。検索メニューで“印刷”を選択すると、“印刷”の設定画面が表示されます。NetFS機能が使用中の場合(“ネットワーク”メニュー-“NetFS”タブ)、イメージをNetFSサイトにアップロードできます。



図 59: 印刷画面

“プリンターモデル名”で“PostScriptプリンター”または“ファイルプリンター”を選択します。PostScriptプリンターを選択した場合、現在の映像がUSB端子に接続されたプリンターで印刷されます。ファイルプリンターを選択した場合、現在の映像がUSB保存媒体またはNetFSサイトにPDFファイルで保存され、保存された映像はパソコンに接続されているプリンターで印刷できます。

“用紙サイズ”で望みの用紙サイズを選択します。

参考: LPT端子(並列ポート用端子)のみサポートするプリンターの場合、LPTをUSBに変換するケーブルを別途購入して使用してください。

付録

USBハードディスクのインストール

USBハードディスクをDVRに接続する為には、事前にWindows PCを用いて初期化する必要があります。本章ではこの初期化の方法について説明します。

参考: 下記の内容はWindows 2000での設置を基準で記述されました。Windows XP、Windows VistaとWindows 7を用いたUSBハードディスクの初期化は、Window2000とほとんど同じです。

1. USBケーブルを使用してUSBハードディスクをPCに接続します。
2. PCを起動させます。
3. USB装置のアイコンがタスクバーに表示されます。
4. もしUSBハードディスクのパーティションが既に作成され、データが保存されている場合、他のハードディスクと同様にマイコンピュータで内容を確認できます。「登録情報」→「一般」→「ファイルシステム」の順にアイコンにカーソルを当てて、マウスの右ボタンをクリックして確認します。もし、ファイルシステムがFAT32フォーマットでない場合、USBハードディスクをFAT32フォーマットにフォーマットし直します。
5. USBハードディスクのパーティションを作成するには「管理者ツール」→「コントロールパネル」→「コンピュータ管理」を実行します。「保存装置」の「ディスク管理者」を開けて、USBハードディスクの未割当領域にマウスカーソルを当て、マウスの右ボタンをクリックしてパーティションを作ります。
6. 「パーティション作成ウィザード」で「Next」をクリックすると、「メインパーティション」画面の説明に従ってパーティションを作ります。ファイルシステムをFAT32に選択したかどうか確認します。

参考: パーティションのサイズはマイクロソフトの制限があるため、32GBより小さく設定してください。

7. フォーマットを完了すると、USBハードディスクがマイコンピュータ内に追加されます。
8. DVRにUSBハードディスクを接続します。

テキストイン情報のクエリー例

クエリー例1

1 2 3 4 5 6
12345678901234567890123456789012345678901234567890

Item	Unit price	Qty	amount
Coke	\$ 2.20	1 (s)	\$ 2.20
Fanta	\$ 2.20	1 (s)	\$ 2.20
Hotdog	\$ 3.50	3 (s)	\$ 10.50
Pepsi	\$ 1.95	1 (s)	\$ 1.95
total : \$			16.85

Thank you~~

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目(Unit price)、28文字目(Qty)、および40文字目(amount)に位置しています(スペース文字を含みます。\$記号は自動的に無視されます)。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を入力できます。例えば、Qty(数量)が1より大きいCokeと、amount(合計金額)が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

テキストイン検索条件

開始 2018/10/23 13:58:52

終了 2018/10/23 13:58:52

チャンネル 1-8

汎用テキスト

番号	名前	比較演算子	値	コラム	列
1	Coke	>	1	28	0
2	AND	>	8	40	0

条件...

取込 保存 決定 キャンセル

クエリー例2

1 2 3 4 5 6
12345678901234567890123456789012345678901234567890

Item	Unit price	Qty	amount
Coke	\$ 2.20	1 (s)	\$ 2.20
Fanta	\$ 2.20	1 (s)	\$ 2.20
Hotdog	\$ 3.50	3 (s)	\$ 10.50
Pepsi	\$ 1.95	1 (s)	\$ 1.95
total : \$			16.85

Thank you~~

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目(Unit price)、28文字目(Qty)、および40文字目(amount)に位置しています(スペース文字を含みます。\$記号は自動的に無視されます)が、amountカテゴリーの行がItemとは異なっています。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を、列ボックスには次行を示す1を入力できます。例えば、Qty(数量)が1より大きいCokeと、amount(合計金額)が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

テキストイン検索条件

開始 2018/10/23 13:58:52

終了 2018/10/23 13:58:52

チャンネル 1-8

汎用テキスト

番号	名前	比較演算子	値	コラム	列
1	Coke	>	1	28	0
2	AND	>	8	40	1

条件...

取込 保存 決定 キャンセル

ウェブガード

ウェブガード(WebGuard)はインターネット上で別度のプログラムがなくても遠隔地の映像を監視及び検索できるもので、一般ブラウザ(インターネットエクスプローラー)を用いて簡単に接続できます。

ウェブガードの行うためには下記の通りPCのシステムの仕様がが必要です。

- OS: Microsoft® Windows® XP (Service Pack 3)、Microsoft® Windows® Vista (Service Pack 1)、Microsoft® Windows® 7 (Home Premium、Professional、Ultimate)、Microsoft® Windows® 8 (Pro、Enterprise)
- CPU: Intel Core2 Duo 2.4GHz 以上
- RAM: 2GB以上
- VGA: 256MB以上 (1024x768、24bpp以上)
- Internet Explorer: バージョン9.0以上

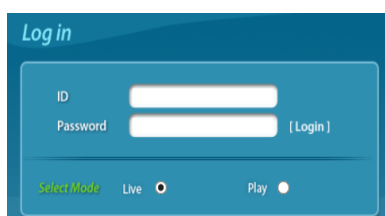
インターネットエクスプローラーを実行してからアドレス入力欄へ下の情報を入力してください。

- “http://IPアドレス:ポート番号”(DVRシステムIPアドレス及びネットワーク-ウェブガード設定から設定したウェブガード接続ポート番号(デフォルト値: 12088)入力)
- あるいは、“http://FENサーバーアドレス/FEN名”(FENサーバーアドレス及びFENサーバーへ登録されたDVR名入力)
- あるいは、“http://www.dvronline.net”(ログイン時DVR IPアドレスあるいはFENサーバーへ登録したFEN名を入力要求)

参考: 接続しようとするDVRのIPアドレス及びウェブガードのポート番号はネットワーク管理者へお問い合わせください。

参考: ウェブガードはマイクロソフトインターネットエクスプローラー(Microsoft Internet Explorer)のみ対応しており、他のブラウザには対応していません。

参考: ウェブガードはMicrosoft® Windows® 8のメトロ(Metro) UIでは、動作しません。



ウェブガードのログイン画面が出ると“Live Viewer”(ウェブ監視)または“Play Viewer”(ウェブ検索)を選択します。ID及びパスワードを入力して[LOGIN]ボタンをクリックすると選択したモードに接続されます。

“http://www.dvronline.net”を入力して接続する場合は、“DVR ADDRESS”項目へDVRのIPアドレスを入力します。ログインメニューから“Use DVRNS”オプションを選択したらIPアドレスの代わりにFENサーバーへ登録されたFEN名を入力することが可能であり、SETUP設定からFENサーバーのアドレス及びポート番号の入力が求められます。

参考: ウェブガードプログラム運営中にはログイン窓を閉じないでください。ウェブ監視又はウェブ検索モードに切り替わる際にはスクリプト(SCRIPT)エラーが発生します。この場合にはウェブガードプログラムをリスタートする必要があります。

参考: 新しいバージョンのウェブガードを開く場合、インターネットエクスプローラーで以前のバージョンの情報を読み込むことがあります。その場合には、コントロールパネル→インターネットオプション→全般に移動してインターネット一時ファイルでファイルの削除をしてから、ウェブガードを行ってください。

参考: ウェブガードを実行する場合、アドレスバーやステータスバーを表示すると画面の下段部が見えなくなる場合があります。この現象を解決するためにはインターネットの設定を変更し、アドレスバーやステータスバーを表示しないでブラウザを開くことをお勧めします。(“ツール”→“インターネットオプション”→“セキュリティ”→“レベルのカスタマイズ”→“Webサイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する”のオプションを“有効にする”に設定)。

参考: マイクロソフトウィンドウズ・ビスタ(Microsoft Windows Vista)またはその上の運営体制よりウェブガードソフトを起動する場合、インターネットエクスプローラー実行するためにはエクスプローラーのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし表示されるメニューより“管理者として実行”をお選びください。“管理者として実行”を選択しない場合、ウェブガードの一部の機能が制限される恐れがあります。

参考: マイクロソフトウィンドウズ・ビスタ(Microsoft Windows Vista)またはその上の運営体制では映像転送速度の低下によりウェブガードのスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、ご使用のPCのオートチューニング機能の解除をお勧めします。

管理者権限でコマンドプロンプト実行(“スタート”メニュー→“すべてのプログラム”→“コマンドプロンプト”→マウスの右ボタンを利用し、“管理者として実行”選択)。“netsh int tcp set global autotuninglevel=disable”を入力してからENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

オートチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから“netsh int tcp set global autotuninglevel=normal”を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

ウェブ監視モード

ウェブ監視は遠隔地の映像をライブで監視できる遠隔地ウェブ監視のプログラムです。



- ①  を押すとウェブガードのプログラムが終了されます。
- ② マウスのポインターをLive Viewerのロゴ部分に置くとウェブガードのバージョンを確認することができます。
- ③ ディスプレーモードを選択することができます。カメラの順番を入れ替える事が可能です。
- ④  を押すとPlay Viewerモードに転換されます。
- ⑤ ウェブガードログイン情報を表示します。
- ⑥  を押すと監視映像をグラフィックファイルとして保存します。 を押すと遠隔地のVRイベント、カメラ、ストリーム設定などの設定ができます。

- ⑦ 監視映像の画質を調節します。
- ⑧ 遠隔地のPTZカメラを制御します。
- ⑨ 遠隔地のアラーム出力装備を制御します。
- ⑩ イベント状態窓は遠隔地で検知されたイベントリストを表示します。
- ⑪ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。



- カメラタイトル変更: カメラタイトルを変更することができます。
- オーディオオン: 遠隔地とのオーディオの送受信機能を提供します。項目を選択するとオーディオ ボタンが表示されます。 ボタンを選択するとマイクを利用して遠隔地に音声を送ることが可能であり、 ボタンを選択するとスピーカーから遠隔地のオーディオを再生することが可能であります。 ボタンと ボタンをすべて選択すると遠隔地と両方向オーディオの送受信が可能になります。 ボタンを選択するとオーディオ送受信が非有効化します。
- 画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
- ブロック現象改善: 拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

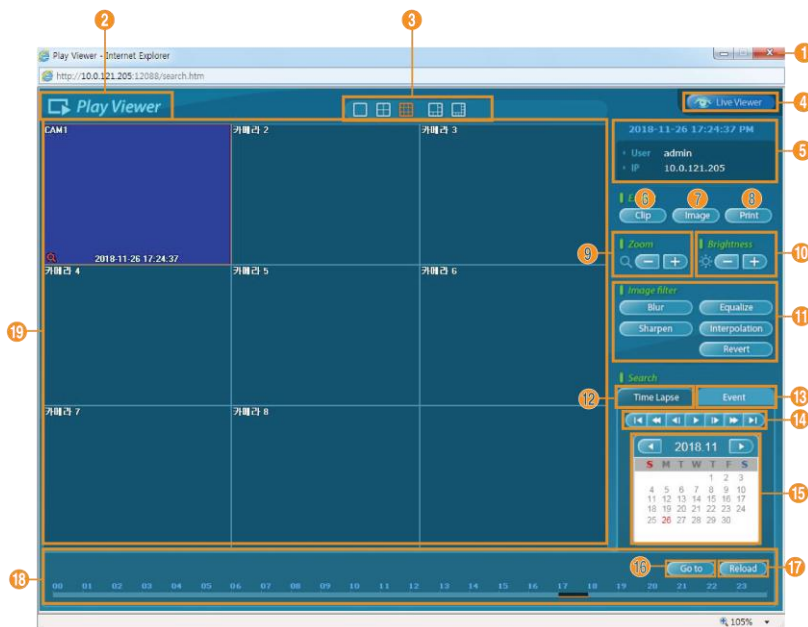
参考: ウェブ監視モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

参考: 接続したオーディオ制御機能をサポートする場合、当該カメラスクリーンに アイコンが表われます。

ウェブ検索モード

ウェブサーチは遠隔地の録画映像を検索することができる遠隔地ウェブ検索プログラムです。

参考: ウェブ検索スクリーンからの遠隔地接続は30分以上の操作がない場合、自動解除されます。



- ①  を押すとウェブガードのプログラムが終了されます。
- ② マウスのポインターをPlay Viewerのロゴ部分に置けばウェブガードのバージョンを確認することができます。
- ③ ディスプレーモードを選択することができます。
- ④  を押すとLive Viewerモードに転換されます。
- ⑤ 遠隔地DVRの時間情報及びウェブガードログイン情報を表示します。
- ⑥  を押して録画映像を実行ファイルとして保存します。
- ⑦  を押して現在みている映像を画像ファイルで保存します。
- ⑧  を押して現在の映像をパソコンに接続されているプリンターで印刷します。
- ⑨ 映像を縮小・拡大します。
- ⑩ 映像の明るさを調節します。
- ⑪  を押して映像に様々なイメージフィルターを適用します。
参考: 映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。
- ⑫  を選択するとタイムラプス検索モードを利用し、録画映像を時間順に従って検索・再生します。タイムラプス検索モードでの検索は日付の単位で行われ、カレンダーで検索する日付を選択することができます。画面下のタイムテーブルではカレンダーで選択した日付の録画映像の時間情報を表示します。時間を選択すると、その時間帯の映像を画面に表示します。選択した時間帯に1つ以上の映像がある場合、セグメントを選択することができます。
- ⑬  を押してイベント検索モード用いて使用者が指定した条件を満足するイベントを検索することができます。
 : 映像の先頭に移動  : コマずつ再生  : 映像を高速逆再生  : 高速再生
 : コマずつ逆再生  : 映像の最後に移動  : 通常再生・一時停止
- ⑭ 再生ボタンを押して指定した状態で映像を再生することができます。
- ⑮ 特定の日付の映像をカレンダー検索で探すことができます。録画された映像がある日付は水色で表示されます。日付を選択すると、その日付のもっとも早い時間に録画された映像が静止画の状態が表示されます。選択された日付はオレンジ色で表示されます。
- ⑯  を選択するとイベント検索モードになり、ユーザーが指定する特定な条件に満足するイベントを検索することができます。
- ⑰  を押すと遠隔地の録画映像をロードします。
- ⑱ 選択したカメラの録画情報を時間単位で表示します。カメラのシステム時間が過去に変更され同一の時間帯に1つ以上の映像が存在する場合、タイムテーブルの右上のセグメントメニューでどのビデオセグメントを検索するか指定することができます。
- ⑲ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。

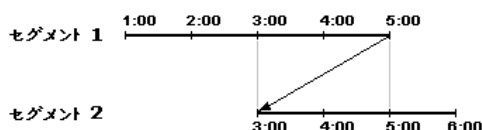
カメラタイトル変更
 オーディオオン
 画面レート
 ブロック現象改善

 - ・カメラタイトル変更: カメラタイトルを変更することができます。
 - ・オーディオオン: 当該映像を保存しながらオーディオも一緒に録音している場合にチェックするとオーディオを出力します。(単一画面再生時に限る)
 - ・画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
 - ・ブロック現象改善: 拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

参考: Play Viewerより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

時間重複

使用者が時刻を戻して録画を行う場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して検索する必要があります。例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントが発生します。



重なった時間の録画映像を検索する時には特定時間または時間範囲を選択することができます。重なった時間の3時より5時の間の区間で“日時指定検索”などの検索メニューを用いてある特定の検索時間を指定する場合、“4時”の録画映像を検索しようとするすると重なった二つのセグメントの中にもどかのセグメントの4時なのかを選択する必要があります。

参考:“セグメント”の字の前の数字が小さいものが後に録画したデータです。

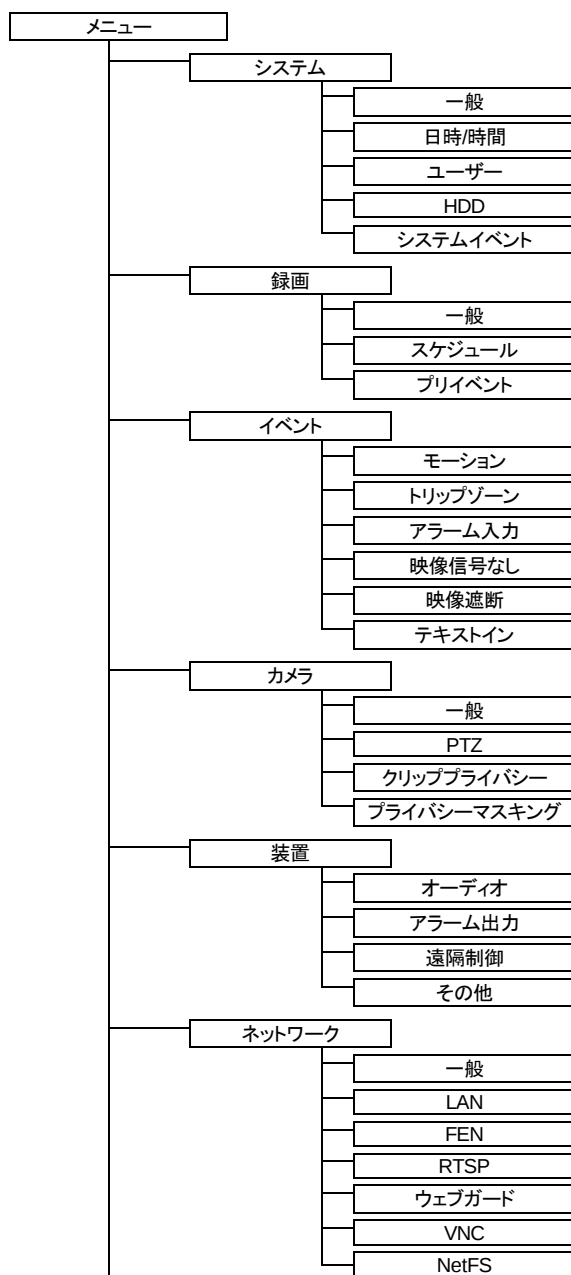
セグメントを選択して下さい
1: セグメント 1
2: セグメント 0

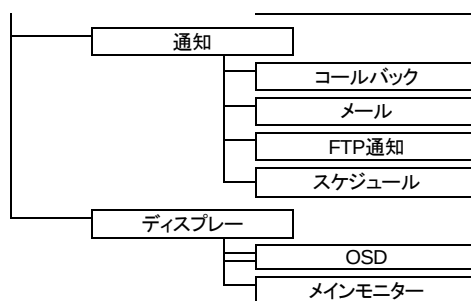
時間が重なった3時~5時区間で、“イベントログ検索”、“テキストイン検索”及び“モーション検索”などの検索メニューを使用して検索時間範囲を指定する場合、“4時~5時”の間の録画映像を検索したい場合には、重なった二つの検索開始と終了時間の中に一つを選択する必要があります。選択できる検索範囲は下記の通りです。

- セグメント1の4時~セグメント1の5時
- セグメント1の4時~セグメント2の5時
- セグメント2の4時~セグメント2の5時

範囲を選択して下さい
1: 範囲 2 ~ 2
2: 範囲 2 ~ 3
3: 範囲 3 ~ 3

設定画面の構成図





システムログタイプ

システム開始	接続が解除されました: NetFS:
システム終了	全てのデータ削除
システム再開	ディスク削除
アップグレード	ディスク初期化
アップグレードエラー	ディスクフル
電源エラー	ディスク構成変更
時間変更	ディスク '番号': 'シリアルナンバー'
標準時間帯変更	ディスク '番号': 除去された
タイムサーバー成功	自動削除
タイムサーバー失敗	検索開始
ディスクエラー	検索終了
ログイン	バックアップ開始
ログアウト	バックアップ終了
設定開始	バックアップキャンセル
設定終了	バックアップ失敗
遠隔設定変更	バックアップユーザー:
遠隔設定エラー	バックアップスタート:
設定読込	バックアップ終了:
設定読込失敗	バックアップ映像再生時間:
設定保存	バックアップカメラ:
設定保存失敗	コールバック失敗
設定保存取消	印刷開始
スケジュール作動	印刷終了
スケジュール終了	印刷キャンセル
緊急録画開始	ログイン: VNC (サーバーのアドレス)
緊急録画終了	ログアウト: VNC (サーバーのアドレス)
接続されました: NetFS:	

エラーコードタイプ

アップグレードエラーコード		バックアップエラーコード	
番号	エラータイプ	番号	エラータイプ
0	原因不明のエラー	0	原因不明のエラー
1	ファイルバージョンに合いません	1	装置エラー
2	OSバージョンに合いません	2	装置接続失敗
3	SWバージョンに合いません	3	CDメディアがありません
4	カーネルバージョンに合いません	4	間違ったメディア
100	保存装置マウント失敗	5	同じ名前のファイルがあります
101	ファイルが見つかりません	6	残容量が不足
102	ファイル圧縮解凍失敗	7	一時ファイル作成失敗
103	リロ(LILO)実行失敗	8	ディスクを開くのに失敗
104	リブート失敗	9	ディスク初期化失敗
106	光学ドライブのファームウェアのアップデート失敗	10	データベース変更
300	遠隔接続失敗	11	保存失敗
301	遠隔ネットワークエラー	12	ディスクエラー発生
302	遠隔アップグレード権限がありません	13	クリップブレイヤー実行ファイルがありません
303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗	14	クリップブレイヤー実行ファイルを開くのに失敗
304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル	15	クリップブレイヤー実行ファイル保存失敗
400	USB保存装置でマウント失敗	16	イメージ作成失敗
401	USB保存装置でファイル読取り失敗	19	装置接続失敗
402	USB保存装置でファイルコピー失敗	20	装置使用中
403	USB保存装置でファイルコピー失敗	21	サポートしないファイルシステム
404	USB保存装置が接続していない	22	データ検証失敗
405	USB保存装置使用中		
500	バックアップ中のためアップグレード失敗		

故障の際の確認事項

症状	確認事項
本体が起動しません。	- 電源コードの接続状態を確認します。 - コンセントの電源を確認します。
ライブ映像が見えません。	- カメラ映像ケーブルとの接続状態を確認します。 - モニター映像ケーブルとの接続状態を確認します。 - カメラの電源を確認します。 - カメラレンズの設定状態を確認します。 - メインモニターの現在の解像度を確認します。
DVRが録画中に止まってしまいました。	ハードディスクが一杯になると、古い映像から消しながら録画をし続ける上書きモードに設定します。
 アイコンが画面に表示されていますが、DVRは録画しません。	プリイベント設定になっているとイベントが発生しないため録画されていない場合は、黄色い  と  が表示されます。イベントが発生して録画される場合は、赤い  と  が表示されます。
システムアップグレード途中でDVRが再起動を繰り返し、作業を完了できません。	アップグレードするファイルのバージョンを確認します。現在システムにインストールされているバージョンより下位バージョンにアップグレードする場合、デバイスにあるファクトリーリセットスイッチを押して工場初期化を先に行います。工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

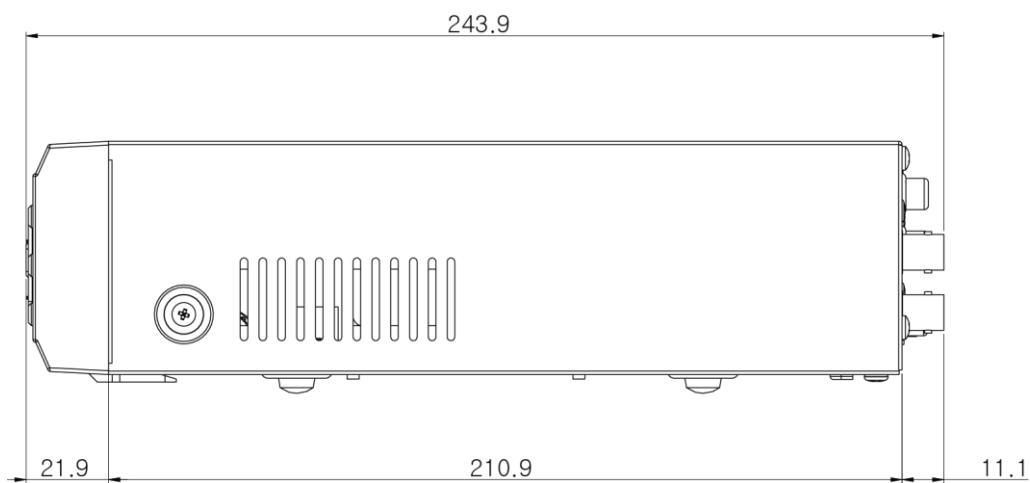
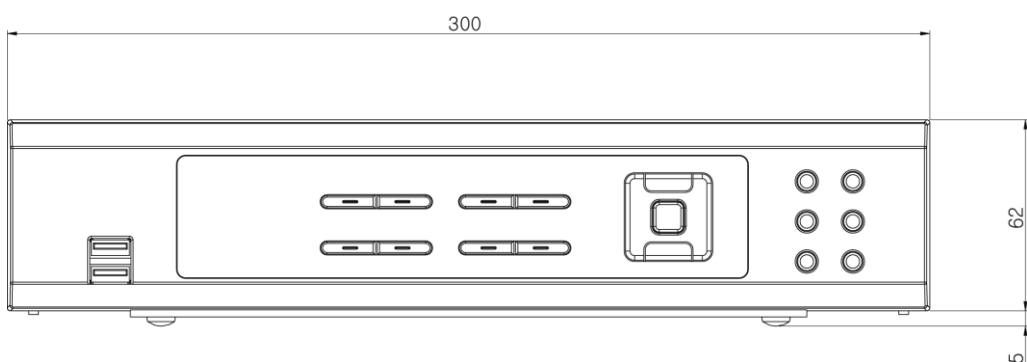
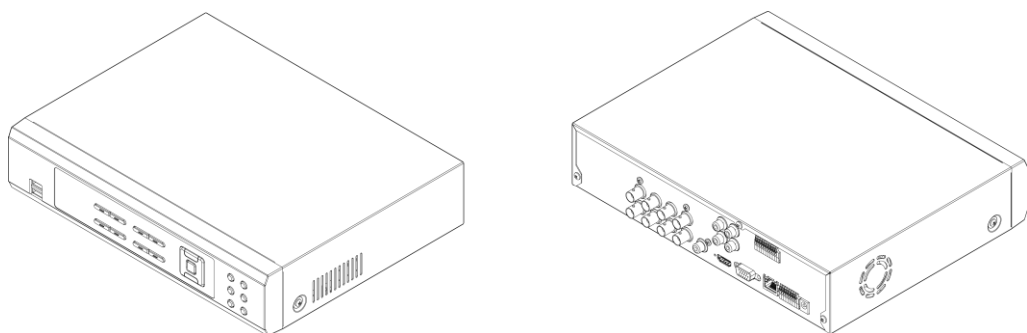
製品の仕様

ビデオ	
信号形態	NTSC または PAL (自動検出)
ビデオ入力	Composite/HD-TV/ AHD: 8 BNC、1 Vp-p、auto-terminating、75 Ohms
モニター出力	HDMI: 1, VGA: 1
ビデオ解像度	HDMI: 1920x1080, 1440x900, 1280x1024 VGA: 1920x1080, 1440x900, 1280x1024
録画速度 (秒当りのイメージ)	240ips @ Full HD (Real-time)
再生速度 (秒当りのイメージ)	120ips @ Full HD (Full Duplex)
入出力	
アラーム入力	8 TTL、NC/NO programmable、2.4V (NC) または 0.3V (NO) threshold、5VDC
アラーム出力	1 relay output、terminal blocks、2A@125VAC、1A@30VDC (NO)
内蔵ブザー	10cm の距離で 78dB
ネットワーク接続	10/100 Mbps
オーディオ入力	4(independent) line、RCA
オーディオ出力	1 line、RCA
テキストイン	POS Interface、ATM Interface
端子	
ビデオ入力	Composite/HD-TV/ AHD: 8 BNC、1 Vp-p、auto-terminating、75 Ohms
モニター出力	HDMI: 1, VGA: 1
オーディオ入力	RCA connector
オーディオ出力	RCA connector
通知	Terminal block
イーサネットポート	RJ-45
RS232シリアルポート	Terminal block
RS485シリアルポート	Terminal block
IR遠隔制御ポート	リモコン
USBポート	2 (USB 2.0)
保存	
メイン保存装置	SATA HDD
バックアップ装置	USB 保存装置
一般	
外形サイズ (W x H x D)	300mm x 62mm x 232mm
包装サイズ (W x H x D)	390mm x 113mm x 360mm
本体重量	3.0kg (2TB 2HDDs)
包装重量	4.4kg
動作温度	0°C ~ 40°C
動作湿度	0% ~ 90%
入力電源	Adaptor: input – 100V~, 50/60Hz、1.5A、output – 12V $\overline{\text{■}}$ 、5A
消費電力	12V $\overline{\text{■}}$ 、1.7A、20.4W
対応規格等	PSE

本製品の仕様は、製品改良のため、事前予告なしに変更されることがあります。

外形寸法図

(単位 : mm)





© 2019 TB-eye Ltd.

株式会社ティービーアイ

〒104-0031

東京都中央区京橋2-2-1京橋エドグラン